

旭市学校再編基本方針



令和3年6月

目 次

はじめに.....	1
I 策定にあたって	2
I－1 学校再編の必要性.....	2
I－2 学校が担う役割と統廃合	3
I－3 旭市学校のあり方検討委員会の提言について（提言書の抜粋）	4
I－4 旭市の人口の推計	6
II 学校の現状	7
II－1 小・中学校の数と位置	7
II－2 児童生徒数の実績と推計	8
II－3 学級数の状況.....	9
II－4 学校施設の状況.....	10
II－5 小学校の現状.....	12
II－6 中学校の現状.....	13
II－7 部活動の状況.....	14
III 学校再編の基本方針.....	15
III－1 学校再編に向けた方針	15
III－2 旭市における適正規模と適正配置.....	16
III－2－1 適正規模の基準	16
III－2－2 適正配置の基準	17
III－2－3 施設の有効利用	17
III－2－4 学区について	17
III－2－5 統合に伴う通学方法と跡地活用	18
III－3 統合までのロードマップ（イメージ）	19
IV 小・中学校の再編.....	20
V 小学校の再編.....	21
V－1 児童数の推計.....	22
V－2 小学校再編の時期.....	22
V－3 各小学校の再編について	23
V－3－1 ①中央小学校	23
V－3－2 ②（仮称）旭地域南小学校.....	26
V－3－3 ③（仮称）旭地域西小学校.....	29
V－3－4 ④（仮称）旭地域北小学校.....	31
V－3－5 ⑤（仮称）干潟地域小学校.....	33

V-3-6 ⑥（仮称）海上地域小学校.....	36
V-3-7 ⑦（仮称）飯岡地域小学校.....	39
VI 中学校の再編.....	42
VI-1 生徒数の推計.....	43
VI-2 中学校再編の時期.....	44
VI-3 各中学校の再編について.....	45
VI-3-1 ①（仮称）南統合中学校.....	45
VI-3-2 ②（仮称）北統合中学校.....	47
VI-3-3 ③（仮称）東統合中学校.....	49
VII 小中一貫教育に向けた検討.....	51
VIII 再編に向けて配慮すべき事項.....	52
IX 旭市学校再編計画策定委員会からのメッセージ.....	53
X 旭市人口推計分析（平成30年11月） ※抜粋.....	54



はじめに

令和の新時代がスタートしてから早2年、旭市は1市3町合併から15周年の節目を迎えました。市民の皆様には、これまで進めてきた本市教育行政へのご協力、ご理解に感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行により、国から緊急事態宣言が発令されるなど、これまでの日常が非日常化していく時代となってしまいました。市内の小中学校も例外ではなく、学校が休業となったり、大切なイベントが中止となるなど、大きな変化があった一年となりました。しかし、先行きが見えない不安を抱えながらの学校生活のなかでも、子どもたちのたくさんの笑顔を見たときは、ホッとした気持ちとともに元気をもらえたように思います。

この難しい状況ではありましたが、本市では令和2年4月に第2期「旭市の教育に関する大綱」を策定し、第1期の基本理念である

～旭に学び、育ち、旭を誇りに思うひとづくり～

を引き続き踏襲しつつ、5つの重点目標を掲げたところであります。

一方、人口減少・少子高齢化の進む社会は、国全体の大きな課題となっています。本市も重要課題として様々な施策に取り組んでいますが、依然として人口の減少が続いてるほか、市内各地域の人口の偏りもみられることから、児童生徒数も学校によって大きな差が生じています。

本市の学校施設は、1市3町合併時から旧市町の学校をそのまま引き継ぐ形で運営してきましたが、建設された多くの建築物が今後更新時期を迎え、多額の整備費用が必要になると推計されております。その反面、今後の税収の減少などを見据えると、厳しい財政状況を想定した市政運営が強く求められることから、すべての学校施設を適正に管理し続けることは難しい状況となることが想定されております。

このようなことから、市内の学校運営について見直しを行い、子どもたちが公平、安全に教育を受けられる環境を整えることは、私にとって大きな使命だと思っております。

そのなかで、本市では、平成28年度に「旭市学校のあり方検討委員会」、令和元年度に「旭市学校再編計画策定委員会」を設置し、今後のあり方を見据えた具体的な計画案を作成していただきました。委員の皆様には、多くのご意見をいただきましたことに、改めまして感謝申し上げます。

そして今回、この計画案を踏まえ、本市において「旭市学校再編基本方針」を策定したところであります。

この基本方針を礎として、刻々と変化する激しい時代のなかで将来の旭市を担う子どもたちに「生きる力」「郷土を愛する心」を育める教育環境の充実に強い決意を持って取り組んでまいります。

旭市長 明智 忠直

I 策定にあたって

I-1 学校再編の必要性

現在、日本は急速な少子化が進んでいます。旭市も例外ではなく、多くの小学校で1学年1学級となり、更には児童数が1学年10人以下となっている学校もあります。今後、児童生徒数も更に減少することを踏まえると、学校の数や配置について考えなければならない時期にきています。また、子どもたちの元気な笑顔と活気あふれる学校を継続的に運営できる環境づくりを最優先に考えなければなりません。

このような状況から旭市では、平成28年に「旭市学校のあり方検討委員会」を設置し、将来を展望した旭市立小・中学校について、旭市の子どもたちにとってより望ましい教育環境が提供されるための「学校のあり方」を検討してきました。そして、平成30年3月に提言書が提出されました。

この提言書を踏まえ、「第2期旭市の教育に関する大綱」の基本理念である

「旭に学び、育ち、旭を誇りに思うひとづくり」

が等しい教育の中で続けていけるよう、この旭市学校再編基本方針（以下、「本方針」という）を策定し、教育環境の公平性と充実を図っていくこととしました。本方針の策定にあたっては、行政主導ではなく、市民の代表を含めた中で協議し、官民協働で進めてきました。今後、本方針を基本として地域の合意形成を図りながら、学校の再編を実施していきます。

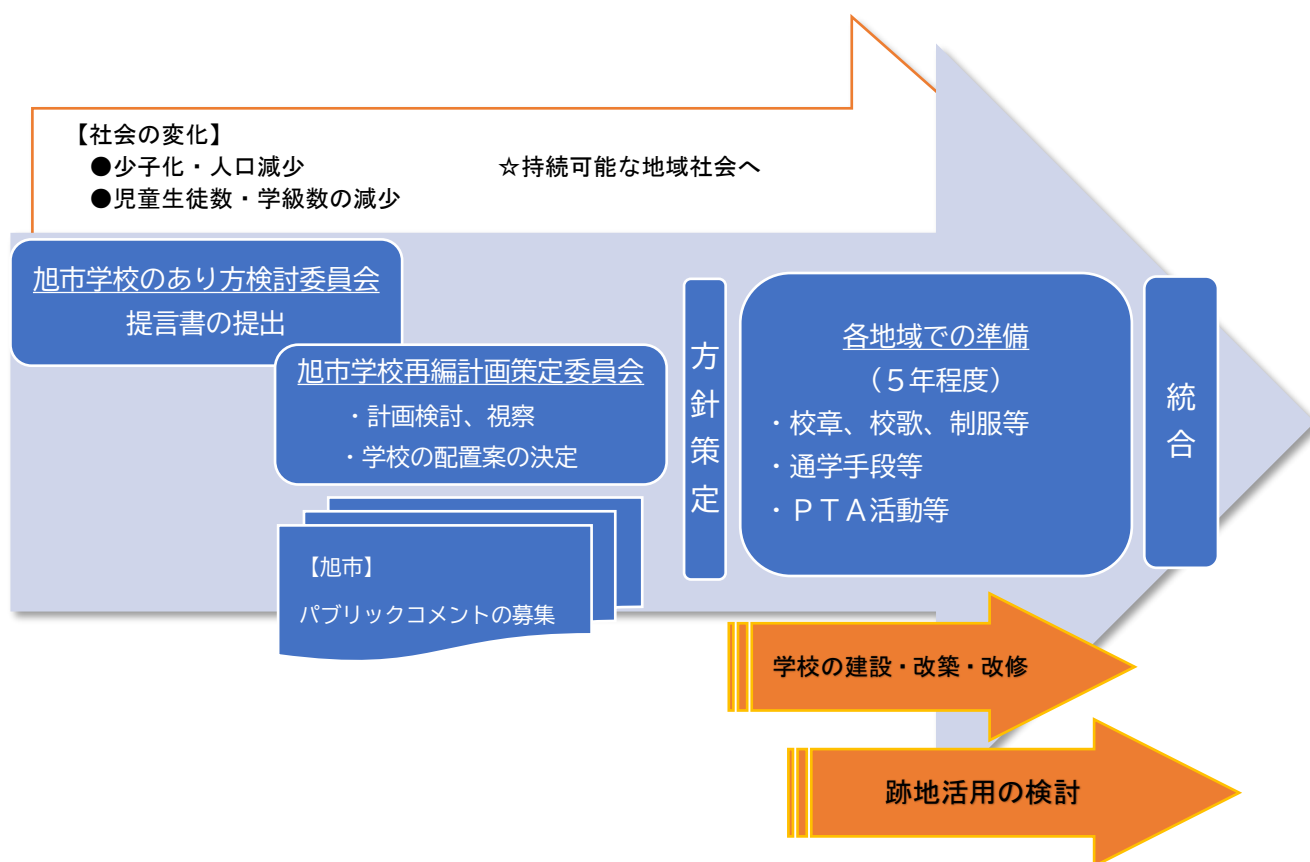


図 - 1 学校再編のフロー図

I-2 学校が担う役割と統廃合

学校の統廃合については、様々なご意見があります。文部科学省の「適正配置」「適正規模」だけで考えると、旭市の小中学校の数は「多い」と判断されます。その反面、地域と深く結びついてきた「学校」を無くすということに抵抗があるという意見もありますが、「旭市総合戦略（第2期）」で掲げる「子どもたちの個性や能力を引き出す学校教育・教育環境を整え、未来を担う子どもたちを育成する」という目標を達成していくうえで、学校規模の適正化を図ることが喫緊の課題であり、学校再編を実施していくことが必要となります。

また、「旭市公共施設等総合管理計画」では、旭市が保有する施設の統合や廃止を推進することとなっており、旭市の建物保有数を縮減しつつ、今後も利用する施設は長寿命化※1工事を行うことで、より長く利用する計画となっています。特に旭市が保有する施設の約50%を学校施設が占めていることから、人口減少による財政規模の減少を踏まえたうえで健全な施設を維持していくためには、施設の統廃合が必要となります。

以上のことから、学校は「子どもたちの教育施設」という大前提を踏まえつつ、様々な役割が求められていることを踏まえたうえで、それらを総合した「質と量の最適化」を図る必要があります。

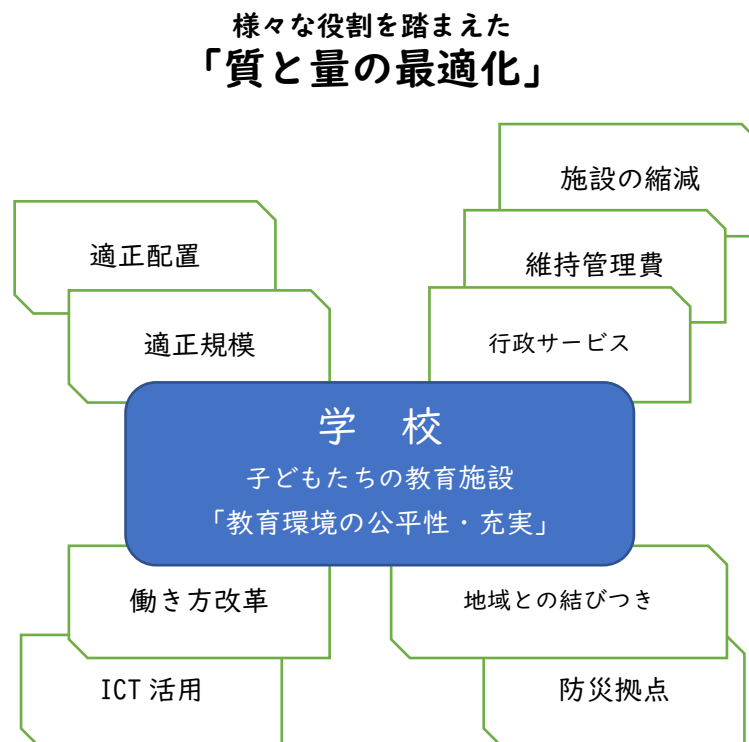


図-2 質と量の最適化

※1 「施設の長寿命化」：定期的に改修工事を実施し、鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数を47年から80年まで延ばし施設を長く利用できるようにすること。

I-3 旭市学校のあり方検討委員会の提言について(提言書の抜粋)

旭市学校のあり方検討委員会としての提言（平成30年3月提出）

旭市学校のあり方検討委員会では、「将来を展望した旭市立小・中学校のあり方」について、適正規模・適正配置の検討を重ねその結果を取りまとめたので、次のとおり提言する。

提 言

【適正規模について】

小学校においては、多様な考え方を持つ児童が出会い、その中で社会性、協調性を培い、お互いに学びふれあい切磋琢磨しながら人間関係を形成していくことが重要であるため、クラス替えが可能な12～18学級（1学年2～3学級）を望ましい適正規模とする。

中学校においては、小学校と同様、様々な人間関係に配慮した学級編制や教科指導の充実を図るためのバランスの取れた教員配置が可能であり、部活動や学校行事においても切磋琢磨する環境を作ることができる12～18学級（1学年4～6学級）を望ましい適正規模とする。

【適正配置について】

現在の旭市において、望ましい適正規模となっている学校は、小学校においては、15校中1校、中学校においては存在していない。このため小・中学校共に望ましい適正規模である12～18学級の学校を念頭に置いた適正配置を検討していくものとする。

ただし、単に現在の学校の規模だけではなく、学校をとりまく様々な現状や児童生徒数のより詳細な将来予測等を踏まえ、将来に向けて学校の良好な教育環境を維持していくという長期的な視点に立ち、学校の望ましい適正規模を安定的に維持できるようにすることを念頭に置く必要がある。

【今後の適正規模・適正配置の検討を進めるにあたって】

現在、旭市においては小学校での複式学級^{※2}及び中学校での単学級^{※3}は存在しない。

しかし、今後の適正規模・適正配置の検討時期を見極めるためには、早期に中長期的な児童生徒数の詳細な将来予測の調査と学校施設の老朽化等に伴う改修や建替え時期などの把握に努め、総合的に判断しながら進めていくことが必要である。

また、検討にあたっては、児童生徒や保護者、地域等の方々からの期待に応えられるような、より魅力的な学校とするよう努めることや、適正配置による児童生徒、学校運営等への影響もできるだけ少なくするよう、様々な配慮が必要である。

例えば、通学距離が延びることで、児童生徒の学校生活における学習意欲や様々な活動に影響を与えないよう、通学時の安全確保や通学時間の短縮などを考慮した、スクールバス等の配慮が必要である。

※2 「複式学級」：決められた人数以下になった場合、2つ以上の学年を1つにまとめること。

※3 「単学級」：1学年に1学級の編制となること。

そして最も大切なことは、保護者や地域住民等との協議の場を設け、学校の適正規模・適正配置の必要性について丁寧な説明を行い、十分に理解を得られるよう努めることである。



***文部科学省が示している学校の規模や配置の目安です。**

①適正規模

(1つの学校でバランスの取れた運営ができるクラス数の目安)

小中学校ともに1つの学校に12～18学級が標準とされています。これは、児童生徒のグループ活動などの社会性とクラス替えが可能などの運営面とのバランスを考慮したものです。

②適正配置 (生徒の通学条件や手段を考慮した学校の場所の目安)

小学校では概ね4km以内、中学校では6km以内を基準としています。通学手段は徒歩やスクールバスなどがありますが、おおむね1時間以内が目安とされています。

I-4 旭市の人口の推計

旭市の人口は1995年（平成7年）の71,382人をピークに減少に転じました。市内の小中学校の児童生徒数もそれに伴うように減少している状況です。

図-3のように、この減少は更に加速し、2020年（令和2年）と比べると、40年後の2060年（令和42年）には約29,000人（約45%）の減少が見込まれています。児童生徒数についても、同様に2060年（令和42年）には約53%の減少が見込まれています。

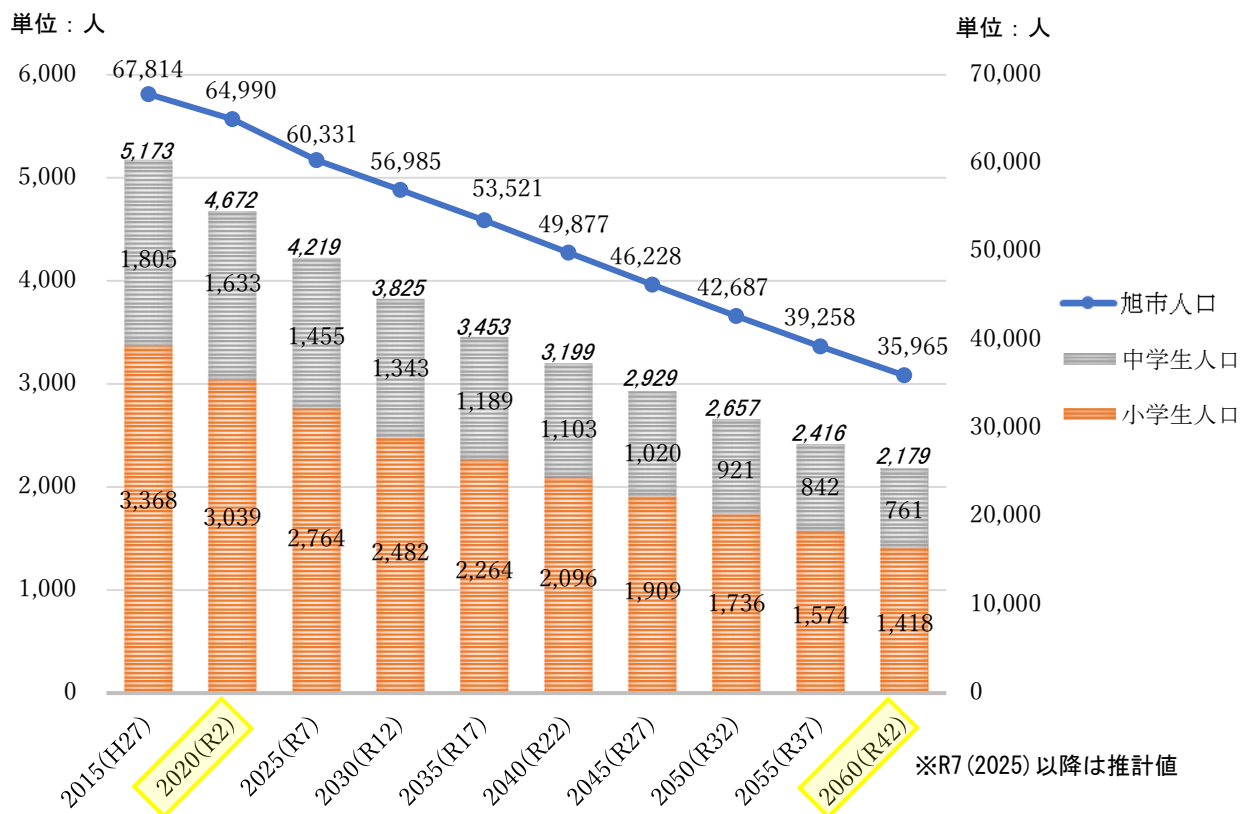


図-3 旭市の人口推計値

※国立社会保障人口問題研究所の人口推計を基に旭市の詳細な人口推計を行いました。

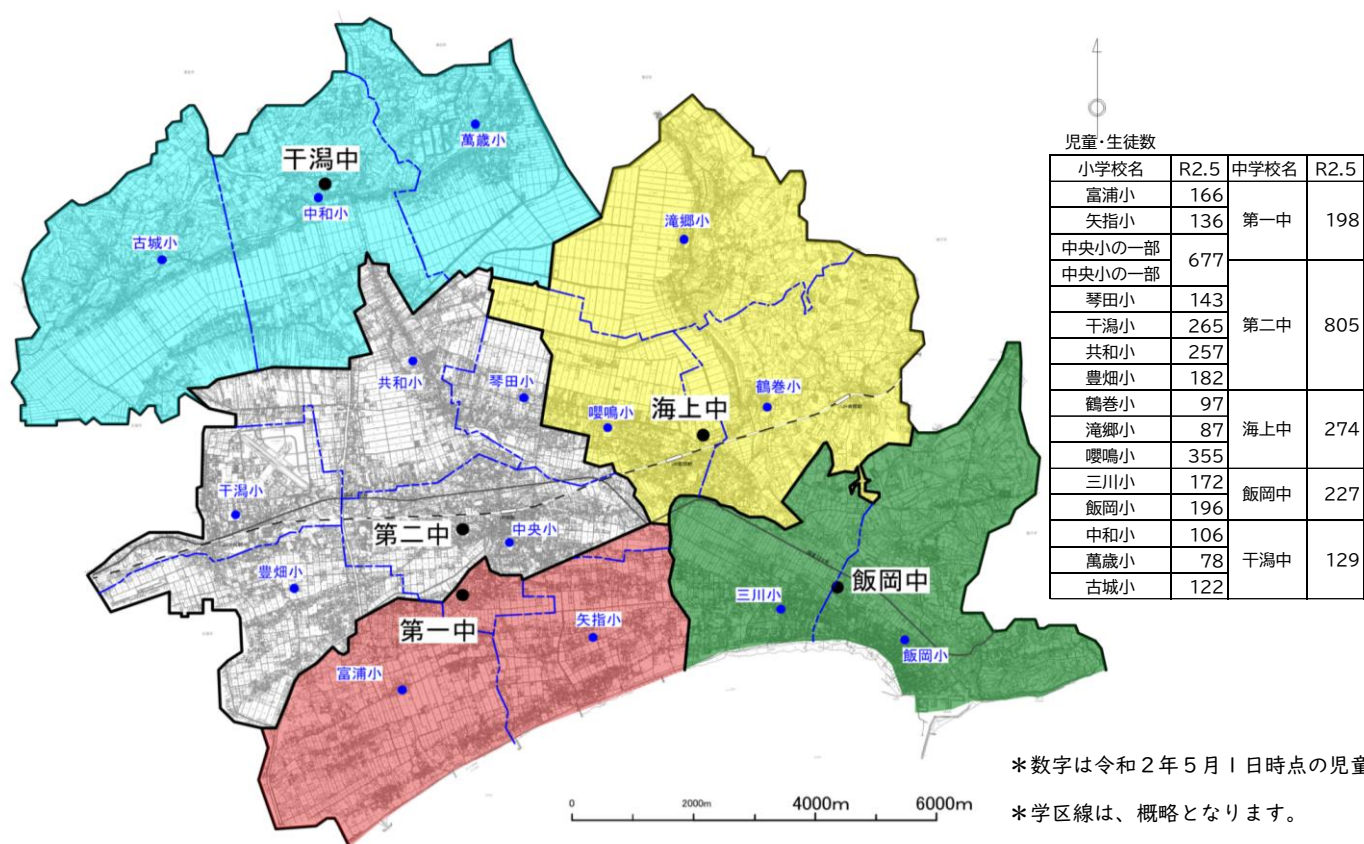
Ⅱ 学校の現状

Ⅱ－１ 小・中学校の数と位置

旭市の小・中学校は全部で２０校（小学校１５校・中学校５校）あります。平成１７年の１市３町の合併前の小・中学校をそのまま引継ぐ形で運営しています。表－１のように各小学校は、それぞれの中学校に行きますが、中央小の児童は居住地によって進学先が第一中または第二中に分かります。

表－１ 地域別学校一覧

地域別	小学校名	中学校名
旭地域 (７小・２中)	中央小・琴田小・干潟小・富浦小 矢指小・共和小・豊畑小	第一中・第二中
海上地域 (３小・１中)	鶴巻小・滝郷小・嚶鳴小	海上中
飯岡地域 (２小・１中)	三川小・飯岡小	飯岡中
干潟地域 (３小・１中)	中和小・萬歳小・古城小	干潟中



図－４ 小・中学校の位置

Ⅱ－２ 児童生徒数の実績と推計

各学校の児童生徒数を見ると、児童生徒数の推移も全体的に減少傾向にありますが、JR周辺の住宅化が進んだことで、人口の流動化による地域の偏りが生じ、地域によって減少率の格差が大きくなると見込まれます。児童生徒数が大幅に減少した場合、複式学級となる可能性もあります。

表－２ 児童生徒数の実績値・推計値（減少率）

学校名	2010 (H22)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2025 (R7)		2030 (R12)		2035 (R17)		2040 (R22)		2045 (R27)		2050 (R32)		2055 (R37)		2060 (R42)	
中央小	(718)	(704)	(700)	714 (677)	696	-3%	643	-10%	596	-17%	554	-22%	500	-30%	446	-38%	406	-43%	375	-47%
琴田小	(170)	(163)	(157)	165 (143)	148	-10%	141	-15%	132	-20%	126	-24%	120	-27%	116	-30%	111	-33%	104	-37%
干潟小	(293)	(255)	(265)	213 (265)	186	-13%	161	-24%	147	-31%	136	-36%	124	-42%	117	-45%	110	-48%	100	-53%
富浦小	(263)	(175)	(180)	168 (166)	158	-6%	137	-18%	122	-27%	111	-34%	99	-41%	89	-47%	79	-53%	69	-59%
矢指小	(202)	(158)	(143)	151 (136)	150	-1%	138	-9%	120	-21%	110	-27%	101	-33%	89	-41%	77	-49%	68	-55%
共和小	(298)	(256)	(250)	253 (257)	235	-7%	211	-17%	192	-24%	176	-30%	161	-36%	149	-41%	136	-46%	123	-51%
豊畑小	(237)	(199)	(189)	184 (182)	160	-13%	142	-23%	126	-32%	115	-38%	104	-43%	93	-49%	83	-55%	74	-60%
鶴巻小	(195)	(107)	(112)	116 (97)	118	2%	111	-4%	99	-15%	92	-21%	85	-27%	77	-34%	67	-42%	58	-50%
滝郷小	(120)	(99)	(92)	92 (87)	77	-16%	68	-26%	62	-33%	59	-36%	53	-42%	45	-51%	39	-58%	33	-64%
嚙鳴小	(370)	(356)	(357)	309 (355)	273	-12%	237	-23%	225	-27%	211	-32%	197	-36%	187	-39%	175	-43%	159	-49%
三川小	(256)	(199)	(186)	186 (172)	167	-10%	157	-16%	145	-22%	136	-27%	127	-32%	120	-35%	110	-41%	99	-47%
飯岡小	(265)	(210)	(208)	185 (196)	160	-14%	137	-26%	120	-35%	107	-42%	95	-49%	83	-55%	72	-61%	60	-68%
中和小	(104)	(111)	(120)	78 (106)	66	-15%	56	-28%	49	-37%	44	-44%	40	-49%	36	-54%	31	-60%	27	-65%
萬歳小	(98)	(73)	(76)	78 (78)	66	-15%	53	-32%	49	-37%	46	-41%	41	-47%	36	-54%	31	-60%	27	-65%
古城小	(132)	(124)	(121)	117 (122)	104	-11%	90	-23%	80	-32%	73	-38%	62	-47%	53	-55%	47	-60%	42	-64%
第一中	(255)	(183)	(201)	168 (198)	152	-10%	152	-10%	128	-24%	116	-31%	106	-37%	95	-43%	85	-49%	73	-57%
第二中	(878)	(829)	(810)	801 (805)	752	-6%	699	-13%	629	-21%	585	-27%	542	-32%	490	-39%	450	-44%	414	-48%
海上中	(358)	(312)	(263)	260 (274)	258	-1%	223	-14%	202	-22%	189	-27%	178	-32%	163	-37%	151	-42%	136	-48%
飯岡中	(309)	(214)	(222)	221 (227)	164	-26%	161	-27%	138	-38%	128	-42%	117	-47%	107	-52%	98	-56%	87	-61%
干潟中	(174)	(138)	(132)	143 (129)	129	-10%	108	-24%	92	-36%	85	-41%	77	-46%	66	-54%	58	-59%	51	-64%
	2010 (H22)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2025 (R7)		2030 (R12)		2035 (R17)		2040 (R22)		2045 (R27)		2050 (R32)		2055 (R37)		2060 (R42)	
小学校計	(3,721)	(3,189)	(3,156)	3,009 (3,039)	2,764	-8%	2,482	-18%	2,264	-25%	2,096	-30%	1,909	-37%	1,736	-42%	1,574	-48%	1,418	-53%
中学校計	(1,974)	(1,676)	(1,628)	1,593 (1,633)	1,455	-9%	1,343	-16%	1,189	-25%	1,103	-31%	1,020	-36%	921	-42%	842	-47%	761	-52%
総合計	(5,695)	(4,865)	(4,784)	4,602 (4,672)	4,219	-8%	3,825	-17%	3,453	-25%	3,199	-30%	2,929	-36%	2,657	-42%	2,416	-48%	2,179	-53%

※2020(R2)年以降は推計値。カッコ書きは実績値。

※減少率は、

(当該年度)－(2020年推計値)

(2020年推計値)

をマイナス%表記したもの。(少数第1位を四捨五入)

Ⅱ－３ 学級数の状況

学級数を見ると、令和２年度では、小学校１０校が単学級となっています。また、中学校は適正規模となる学校が無いことがわかります。児童生徒数の推移と共に、学級数も減少することが見込まれます。

表－３ 学級数の推移 ※特別支援学級を除く。 は旧年度から変更があった学校。

小学校

学級数 年度	6学級 (単学級)	7～11学級	12～18学級 (適正規模)	19学級～
H22	琴田小・鶴巻小・滝郷小 中和小・萬歳小・古城小	富浦小(10)・矢指小(8) 豊畑小(9)・三川小(11) 飯岡小(11)	干潟小(12) 共和小(12) 嚶鳴小(13)	中央小(22)
H29	琴田小・富浦小・矢指小 豊畑小・鶴巻小・滝郷小 中和小・萬歳小・古城小	干潟小(11)・共和小(11) 三川小(7)・飯岡小(9)	嚶鳴小(12)	中央小(23)
H30	琴田小・富浦小・矢指小 豊畑小・鶴巻小・滝郷小 中和小・萬歳小・古城小	干潟小(11)・共和小(11) 三川小(7)・飯岡小(9)	嚶鳴小(12)	中央小(23)
R1	琴田小・富浦小・矢指小 鶴巻小・滝郷小・三川小 中和小・萬歳小・古城小	干潟小(11)・共和小(10) 豊畑小(7)・飯岡小(9)	嚶鳴小(12)	中央小(21)
R2	琴田小・富浦小・矢指小 豊畑小・鶴巻小・滝郷小 三川小・中和小・萬歳小 古城小	干潟小(11)・共和小(10) ・飯岡小(8)	嚶鳴小(12)	中央小(20)

中学校

学級数 年度	6学級	7～11学級	12～18学級 (適正規模)	19学級～
H22	干潟中	第一中(9)・海上中(11) 飯岡中(9)		第二中(24)
H29	第一中・干潟中	海上中(10)・飯岡中(7)		第二中(22)
H30	第一中・干潟中	海上中(10)・飯岡中(7)		第二中(23)
R1	干潟中	第一中(7)・海上中(9) 飯岡中(7)		第二中(23)
R2	第一中・飯岡中・干潟中	海上中(9)		第二中(23)

Ⅱ-4 学校施設の状況

学校の施設は、すべての校舎の耐震工事が完了していますが、昭和40年～50年代に建てられたものが多く、2040年（令和22年）頃に耐用年数の80年を迎える施設が多くあります。

今後、施設の老朽化が進む反面、財政規模が縮小していくことを考えると、充実した教育環境を継続的に維持できない可能性も出てきます。特に、現在の20校すべてを残しつつ施設の維持・更新を実施していくと仮定した場合、年間約9億円の費用が掛かると試算されています。このことから、施設の建替えが必要となる2040年を見据え、再編については速やかに着手し、遅くとも2030年を目途に学校の再編を実施していく必要があります。

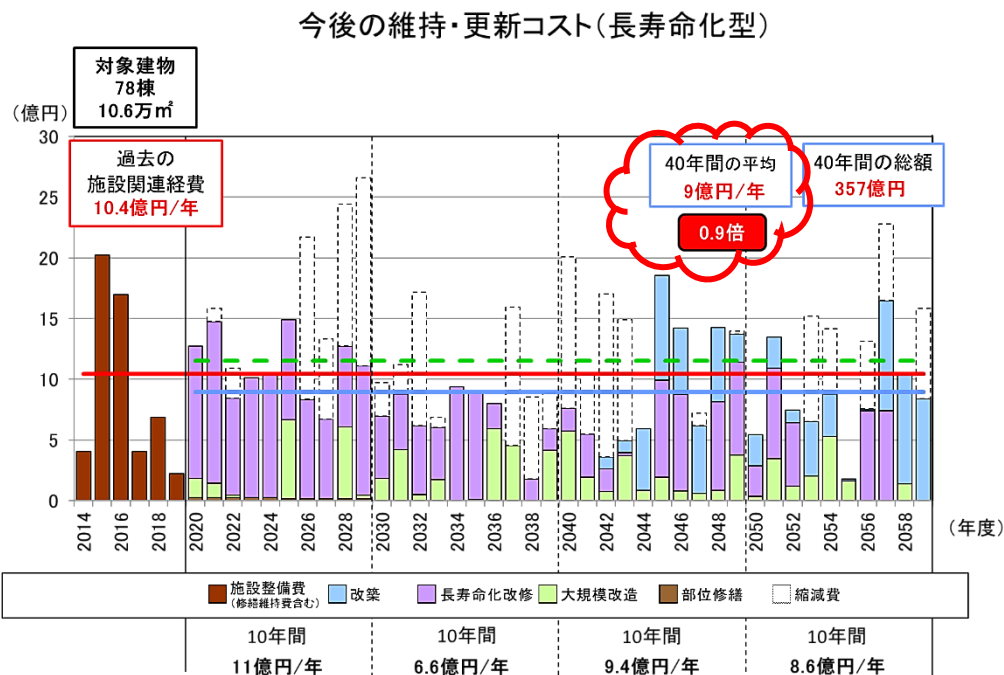


図-5 今後の維持・更新コスト（長寿命化）

表-4（P. 11）は、各学校の主な校舎（延床面積100㎡以上）の建築経過年数を図式化したものです。

表の凡例は下記のとおりです。

〈構造〉建物の構造区分を示したもの

RC：鉄筋コンクリート造 S：鉄骨造 W：木造

〈耐震〉昭和56年改定の建築基準法の耐震基準に適合している校舎は「○」

〈建築年数〉

建築後20年未満・・・青色



建築後50年付近・・・黄色



建築後80年未満・・・赤色



建築後80年以上・・・黒色



表 - 4 学校施設の築後経過年数

●学校施設主要建物(100㎡以上)の築後経過年数

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設							2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	構造	階数	延床	建築年	耐震									
中央小学校	南校舎	RC	3	1128	1965(S40)	○	55	60	65	70	75				
	南校舎	RC	2	894	1963(S38)	○	57	62	67	72	77				
	南校舎	RC	3	855	1979(S54)	○	41	46	51	56	61	66	71	76	
	特別教室棟	RC	2	622	1971(S46)	○	49	54	59	64	69	74	79		
	特別教室棟	RC	2	727	1983(S58)	○	37	42	47	52	57	62	67	72	77
	校舎	RC	2	622	1989(H1)	○	31	36	41	46	51	56	61	66	71
	北校舎	RC	2	2195	2010(H22)	○	10	15	20	25	30	35	40	45	50
	屋内運動場	RC	2	1370	2000(H12)	○	20	25	30	35	40	45	50	55	60
	地域・学校連携施設	RC	2	288	2000(H12)	○	20	25	30	35	40	45	50	55	60
琴田小学校	管理教室棟	RC	2	975	1969(S44)	○	51	56	61	66	71	76			
	管理教室棟	RC	2	392	1988(S63)	○	32	37	42	47	52	57	62	67	72
	特別教室棟	RC	2	877	1981(S56)	○	39	44	49	54	59	64	69	74	79
	屋内運動場	S	2	990	1992(H4)	○	28	33	38	43	48	53	58	63	68
干潟小学校	管理教室棟	RC	3	2112	1973(S48)	○	47	52	57	62	67	72	77		
	管理教室棟	RC	3	1240	1980(S55)	○	40	45	50	55	60	65	70	75	
	屋内運動場	RC	2	1067	1994(H6)	○	26	31	36	41	46	51	56	61	66
	地域・学校連携施設	RC	2	253	1994(H6)	○	26	31	36	41	46	51	56	61	66
富浦小学校	管理教室棟	RC	2	1318	1966(S41)	○	54	59	64	69	74	79			
	管理教室棟	RC	2	940	1970(S45)	○	50	55	60	65	70	75			
	屋内運動場	S	1	965	1982(S57)	○	38	43	48	53	58	63	68	73	78
	特別教室棟	S	1	360	1997(H9)	○	23	28	33	38	43	48	53	58	63
矢指小学校	屋内運動場	RC	2	1011	1993(H5)	○	27	32	37	42	47	52	57	62	67
	管理教室棟	RC	1	1648	2011(H23)	○	9	14	19	24	29	34	39	44	49
	管理教室棟	RC	1	1857	2011(H23)	○	9	14	19	24	29	34	39	44	49
	地域・学校連携室	RC	2	249	1993(H5)	○	27	32	37	42	47	52	57	62	67
共和小学校	校舎	RC	2	1302	1964(S39)	○	56	61	66	71	76				
	校舎	RC	2	515	1967(S42)	○	53	58	63	68	73	78			
	校舎	RC	2	367	1968(S43)	○	52	57	62	67	72	77			
	特別教室棟	S	2	366	1998(H10)	○	22	27	32	37	42	47	52	57	62
豊畑小学校	屋内運動場	S	1	720	1978(S53)	○	42	47	52	57	62	67	72	77	
	管理教室棟	RC	2	240	1968(S43)	○	52	57	62	67	72	77			
	管理教室棟	RC	2	1194	1967(S42)	○	53	58	63	68	73	78			
	教室棟	RC	2	609	1961(S36)	○	59	64	69	74	79				
鶴巻小学校	特別教室棟	RC	2	712	1986(S61)	○	34	39	44	49	54	59	64	69	74
	屋内運動場	S	1	934	1980(S55)	○	40	45	50	55	60	65	70	75	
	普通・特別教室棟	RC	3	2319	1979(S54)	○	41	46	51	56	61	66	71	76	
	特別教室棟	W	1	166	1981(S56)	○	39	44	49	54	59	64	69	74	79
滝郷小学校	屋内運動場	RC	2	1081	1988(S63)	○	32	37	42	47	52	57	62	67	72
	教室棟	RC	2	661	1964(S39)	○	56	61	66	71	76				
	教室棟	RC	3	571	1969(S44)	○	51	56	61	66	71	76			
	特別教室棟	RC	3	1185	1982(S57)	○	38	43	48	53	58	63	68	73	78
嚶鳴小学校	屋内運動場	RC	2	1081	1991(H3)	○	29	34	39	44	49	54	59	64	69
	普通教室棟	RC	3	2358	1976(S51)	○	44	49	54	59	64	69	74	79	
	特別教室棟	RC	2	808	1994(H6)	○	26	31	36	41	46	51	56	61	66
	特別教室棟	W	1	238	2002(H14)	○	18	23	28	33	38	43	48	53	58
三川小学校	屋内運動場	RC	2	1091	1985(S60)	○	35	40	45	50	55	60	65	70	75
	管理教室棟	RC	2	1898	1999(H11)	○	21	26	31	36	41	46	51	56	61
	特別教室棟	RC	3	1537	1980(S55)	○	40	45	50	55	60	65	70	75	
	屋内運動場	RC	2	1183	1988(S63)	○	32	37	42	47	52	57	62	67	72
飯岡小学校	管理教室棟	RC	3	3160	1977(S52)	○	43	48	53	58	63	68	73	78	
	教室棟	RC	3	1094	1993(H5)	○	27	32	37	42	47	52	57	62	67
	特別教室棟	RC	1	310	1983(S58)	○	37	42	47	52	57	62	67	72	77
	屋内運動場	RC	2	1078	1994(H6)	○	26	31	36	41	46	51	56	61	66
中和小学校	クラブハウス	RC	2	246	1994(H6)	○	26	31	36	41	46	51	56	61	66
	管理教室棟	RC	3	2515	1988(S63)	○	32	37	42	47	52	57	62	67	72
	屋内運動場	RC	2	766	1988(S63)	○	32	37	42	47	52	57	62	67	72
	管理教室棟	RC	4	2738	1990(H2)	○	30	35	40	45	50	55	60	65	70
萬歳小学校	屋内運動場	RC	3	1090	1997(H9)	○	23	28	33	38	43	48	53	58	63
	管理教室棟	RC	3	3059	1993(H5)	○	27	32	37	42	47	52	57	62	67
	屋内運動場	RC	3	1149	2004(H16)	○	16	21	26	31	36	41	46	51	56
	管理教室棟	RC	3	1149	2004(H16)	○	16	21	26	31	36	41	46	51	56
第一中学校	教室棟	RC	4	3096	1979(S54)	○	41	46	51	56	61	66	71	76	
	管理教室棟	RC	4	2561	1980(S55)	○	40	45	50	55	60	65	70	75	
	柔剣道場	RC	2	1451	1990(H2)	○	30	35	40	45	50	55	60	65	70
	屋内運動場	RC	2	1812	2010(H22)	○	10	15	20	25	30	35	40	45	50
第二中学校	部室棟	S	2	166	1993(H5)	○	27	32	37	42	47	52	57	62	67
	プール付属棟	S	1	109	1971(S46)	-	49	54	59	64	69	74	79		
	特別教室棟・プール付属室	RC	4	2350	1985(S60)	○	35	40	45	50	55	60	65	70	75
	教室棟	RC	3	3840	2008(H20)	○	12	17	22	27	32	37	42	47	52
海上中学校	管理教室棟	RC	3	1641	2008(H20)	○	12	17	22	27	32	37	42	47	52
	情報処理棟	RC	2	463	1991(H3)	○	29	34	39	44	49	54	59	64	69
	技術室・柔剣道場	RC	2	1186	1979(S54)	○	41	46	51	56	61	66	71	76	
	屋内運動場	RC	2	1799	2007(H19)	○	13	18	23	28	33	38	43	48	53
飯岡中学校	部室棟	RC	2	198	2009(H21)	○	11	16	21	26	31	36	41	46	51
	連絡通路	S	1	232	2008(H20)	○	12	17	22	27	32	37	42	47	52
	管理教室棟	RC	2	2487	2006(H18)	○	14	19	24	29	34	39	44	49	54
	管理教室棟	RC	2	1812	2006(H18)	○	14	19	24	29	34	39	44	49	54
干潟中学校	管理教室棟	RC	2	624	2006(H18)	○	14	19	24	29	34	39	44	49	54
	屋内運動場・剣道場	RC	2	1934	2006(H18)	○	14	19	24	29	34	39	44	49	54
	管理教室棟	RC	2	1927	2015(H27)	○	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	普通教室棟	RC	2	1975	2015(H27)	○	5	10	15	20	25	30	35	40	45
干潟中学校	特別教室棟	RC	2	980.1	2015(H27)	○	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	屋内運動場	RC	2	2572	2015(H27)	○	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	管理教室棟	RC	2	576	1963(S38)	○	57	62	67	72	77				
	管理教室棟	RC	2	722	1964(S39)	○	56	61	66	71	76				
干潟中学校	管理特別教室棟	RC	3	2013	1983(S58)	○	37	42	47	52	57	62	67	72	77
	技術教室棟	S	1	450	1983(S58)	○	37	42	47	52	57	62	67	72	77
	屋内運動場	S	2	1765	1992(H4)	○	28	33	38	43	48	53	58	63	68
	屋内運動場	S	2	1765	1992(H4)	○	28	33	38	43	48	53	58	63	68

Ⅱ-5 小学校の現状

小学校の配置については、学区により広さに差がありますが、概ねバランスよく配置されています。

表-2(P.8)の児童数をみると、2020年で約半数が100人から200人程度となっていますが、中央小学校は学区の大部分が住宅地であるため、唯一の大規模校となっています。配置的には、バランスが取れている反面、児童数は市街地と田園地域の学校でかなりの差が生じています。2060年には全校児童が30人前後となる学校もあり、複式学級となる可能性も出てきます。

立地を見ると、滝郷小・中和小・萬歳小・古城小の一部は土砂災害警戒区域にあり、富浦小・矢指小・三川小・飯岡小は津波浸水区域にあります。また、小学校15校のうち、中和小を除く14校は避難所となっています。文部科学省の通学距離の目安は4kmとなりますが、飯岡小の塙地区を除く全ての学校は4kmの圏内に入っています。また、中央小学校と飯岡小学校の一部の児童が通学にバスを利用しています。

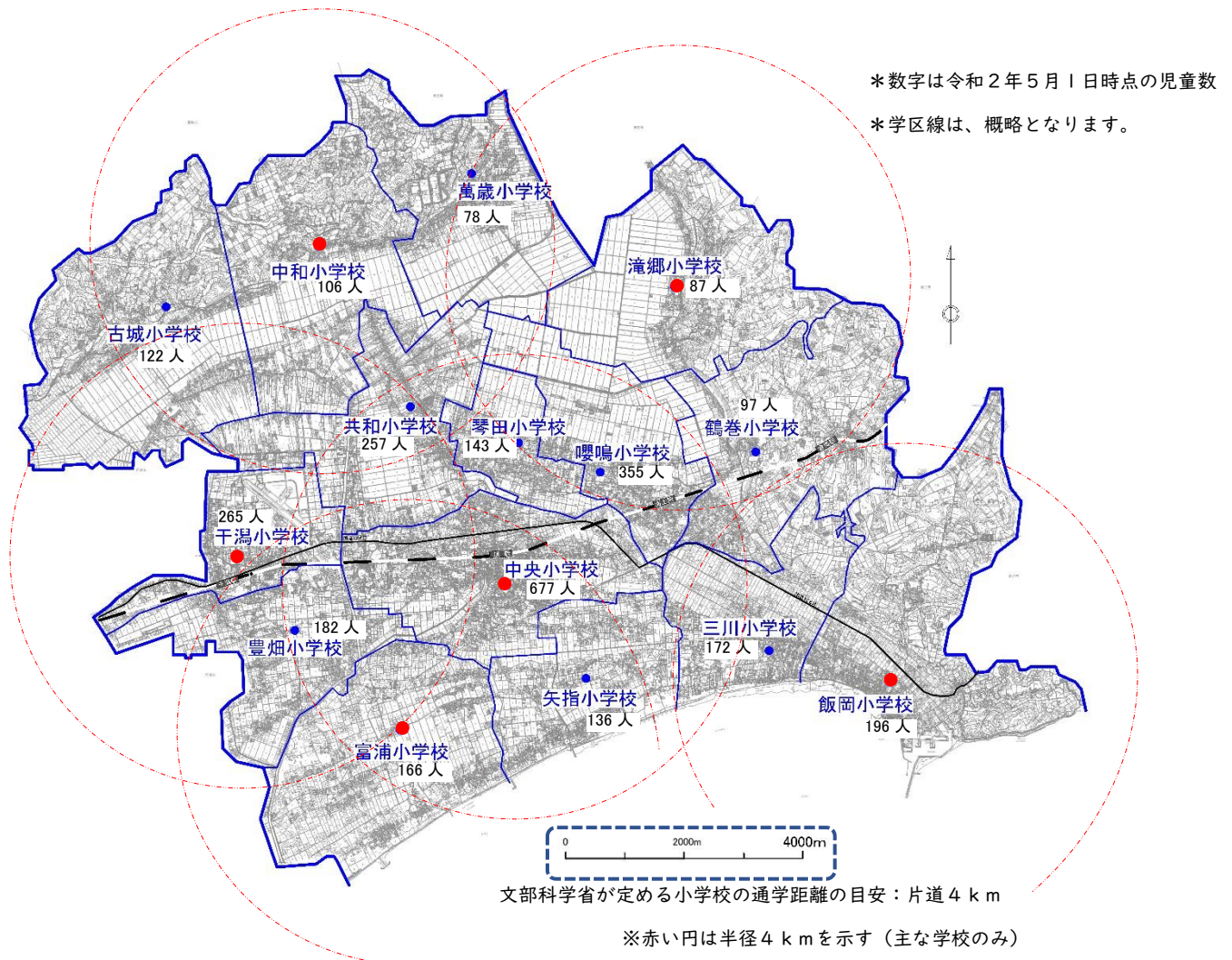


図-6 小学校の位置

Ⅱ-6 中学校の現状

中学校区については、各中学校を中心とした半径6 km以内に概ね収まっています。干潟中学校については、学区が東西に長く広がっているため、他の学区に比べると、生徒の居住地によっては通学距離に大きな差が出てきますが、自転車通学のため、概ね無理のない通学が可能となっています。

学校の配置に目を向けると、第一中学校と第二中学校が極端に近い位置にあり、他の中学校と比べるとバランスを欠いています。また、生徒数を見ると、第二中学校が大規模校となっている反面、近くの第一中学校の生徒数が200人を切っていることから、学校の配置が近接している影響を受けていることが見られます。表-2 (P. 8)

また、全ての中学校が避難所となっていますが、干潟中学校の屋内運動場は土砂災害警戒区域に指定されているため、避難先は武道場となっています。

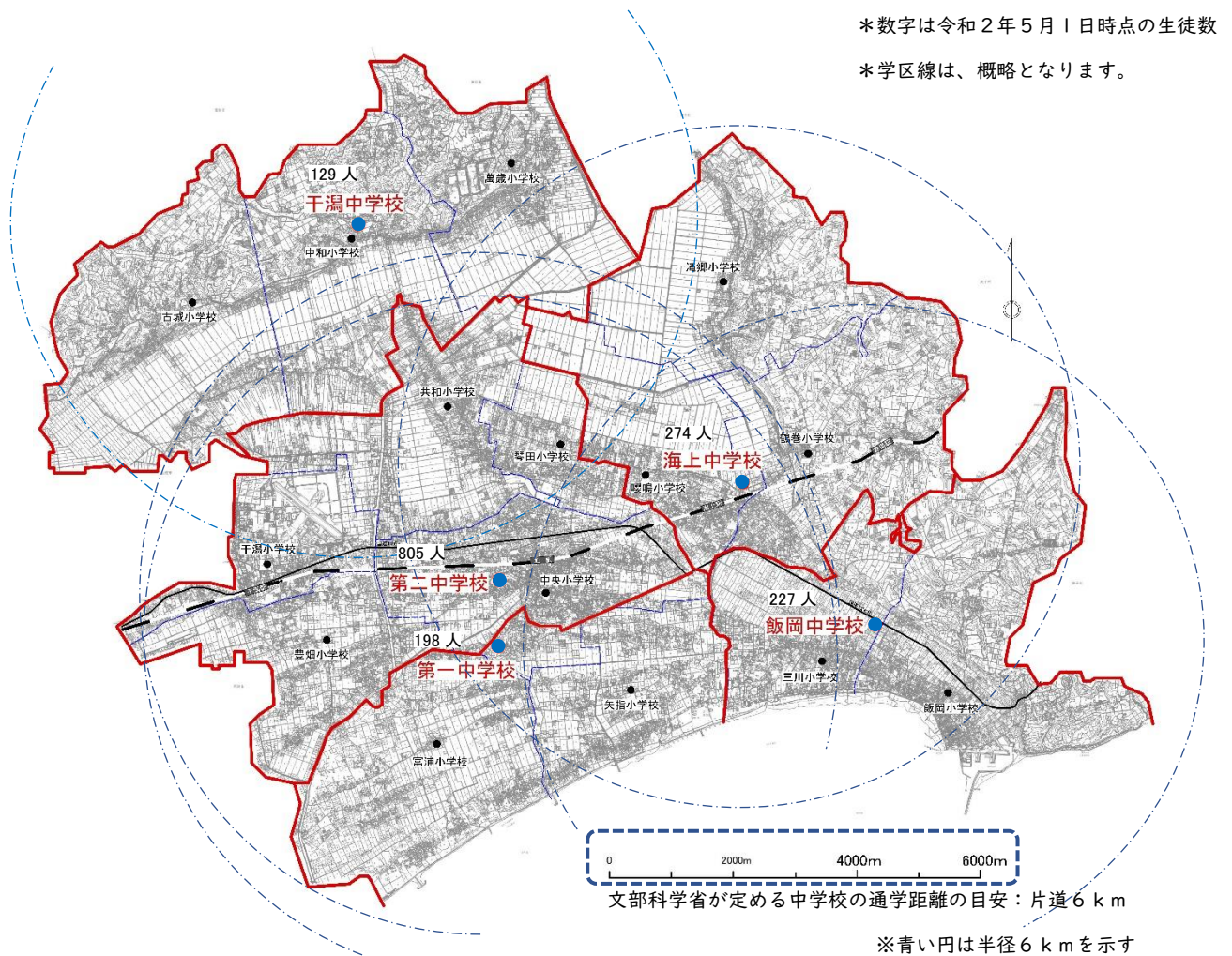


図-7 中学校の位置

Ⅱ－７ 部活動の状況

部活動については、表－５のとおり、学校によって大きな偏りが生じています。そのため、進学の際にやりたい部活動が中学校に無いなど、子どもたちの希望に添えない状況となっています。今後も生徒数の減少によって必要な部員数が確保できなくなったり、生徒数によって配置される教員数が決まるため、顧問の配置ができず、部活動を廃止せざるを得ないこともあります。特に、千潟中は生徒数・教員数が少ないことから、部活動が大幅に限られてしまう状況で、文科系の部活動は個別の活動が難しいため、総合学芸部となっています。

部活動は、教育課程外の活動ではありますが、学校教育の一環として連帯感や責任感、協調性等を養い、人間関係の構築に資するもので、教育課程との関連を図りながら運営する大切な役割を担っています。今後、部活動の在り方が変わっていくことも考えられますが、子どもたちの心身の成長のために残していきたい活動です。

表－５ 部活動の活動状況（H28:R02）

			旭一中		旭二中		海上中		飯岡中		千潟中	
			H28	R2	H28	R2	H28	R2	H28	R2	H28	R2
全校生徒数			233	198	804	805	339	274	245	227	166	129
運動系	陸上競技		27	38	61	89	49	45	15	22	31	30
	野球		24	15	32	30	23	18	35	17	16	17
	ソフトテニス	男			46	31			14	17		
		女			27	29			28	24		
	バレーボール	男	29	22	36	37	22	20	16	10		
		女	21	16	31	28	27	19	12	11	15	14
	バスケットボール	男			38	46	31	27				
		女			16	20	25	16	17	19	18	11
	体操				34	52						
	卓球		18	31	73	75	46	33	36	22		
	柔道				20	19						
	剣道		8	－	28	21	21	11	8	5	21	14
	サッカー		26	－	32	52			18	27	34	17
	ソフトボール（女子のみ）		19	15	25	31	21	19				
	バドミントン				55	38						
文科系	吹奏楽		20	29	68	56	33	27	23	22		
	美術		21	11	51	53	30	16	21	6		
	総合学芸										30	25
	ボランティア				18	8						
	国際文化								1	－		
	演劇				1	－						
	パソコン				23	60						

：活動が無くなった部活動

Ⅲ 学校再編の基本方針

Ⅲ－１ 学校再編に向けた方針

旭市が進める学校の再編に向けた方針を下記のように定めました。

（１）教育環境の公平性（教育の機会均等）

現在の学校規模の地域格差を是正し、児童生徒が等しく教育を受けられる環境づくりに努めます。中学校については、生徒数の減少により部活動に制約が生じるなどの弊害が発生しているため、公平性を確保できる体制づくりに努めます。

（２）義務教育施設の充実

施設の統廃合により、「選択と集中」による施設整備や維持管理を実施し、教育施設の充実を継続的に維持していきます。

（３）地域の理解とつながりの推進と教育の一貫性

学校再編にあたり、丁寧な説明と地域の理解を深めることが重要です。さらに、新たな学校づくりとして、小中一貫教育※⁴の導入や、地域に根付く新たな学校として、地域との一体感を醸成する取り組みも考慮していきます。

（４）弾力的な学校の選択

学校の再編にあたり、通学時間・通学方法、地域性や家庭の事情を踏まえた学区の弾力化を図ります。また、通学手段についても、コミュニティバスやスクールバスなどの検討を行います。

※４「小中一貫教育」：義務教育９年間の全体像を把握し、系統性、連続性に配慮した教育。この制度を行う学校制度には、

「義務教育学校」と「一貫型小・中学校（併設型・連携型）」の形態があるが、特に義務教育学校であると、連続した９年間の教育課程を一体的に学ぶことから、小学校と中学校の隔たりが無くなり、中学進学へのストレスが減るなどのメリットがあるとされる。総称として「小中一貫校」と呼ばれる。

Ⅲ－２ 旭市における適正規模と適正配置

旭市学校のあり方検討委員会の提言書では、小・中学校の適正規模・適正配置を１２～１８学級を念頭に、児童生徒数の将来推計を踏まえ、良好な教育環境を長期的、安定的に維持できるように検討することとなっています。

Ⅲ－２－１ 適正規模の基準

本市においても、適正規模１２～１８学級を念頭に適正配置を検討しました。
 １学級を３５人とする、１２学級で４２０人となります。人数だけで判断すると学校数は大幅に減少させなければなりませんが、地域性等を考慮すると、再編後の学校においても、ある程度の許容が必要となります。そのため、様々な教育活動を考えた場合、ある程度の下限値を設けたうえで学校再編を検討する必要があると判断し、小学校は１学年２０人程度を目安としました。また中学校は、人数ではなく、１学年２学級以上を目安としました。

表－６ 適正規模と児童生徒数の考え方

小学校における学級編制の標準

区分	１学級の児童数			
	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年以上
国	３５人以下	４０人以下		
千葉県 (R2 弾力運用)	３５人以下			３８人以下

旭市が設定する１学年の児童数の下限

旭市	下限の目安 ２０人程度 【理由】単学級となっても、ある程度のグループ活動が可能となるため。
----	--

中学校における学級編制の標準

区分	１学級の生徒数		
	第１学年	第２学年	第３学年
国	４０人以下		
千葉県 (R2 弾力運用)	３５人以下	３８人以下	

旭市が設定する１学年の学級数の下限

旭市	１学年２学級以上 【理由】人間関係の固定化を避け、生徒の多様性に対応できる。 専門教科数以上の教員数の確保ができる。
----	--

※義務教育学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第４条
 千葉県教育長 通知「令和２年度公立小中学校義務教育学校定員配置基準について」

Ⅲ－２－２ 適正配置の基準

適正配置については、児童生徒の通学距離を基に検討してきました。

文部科学省の基準では、通学距離は小学校で概ね４ｋｍ以内、中学校で概ね６ｋｍ以内であることが適正とされ、これを目安に学校の配置を考慮することになります。また、通学時間は１時間が目安となります。

旭市でも、小学校の通学距離は、概ね４ｋｍ以内を判断基準として配置を検討してきましたが、通学距離が延びる児童については、通学に要する時間も考慮して、通学手段の検討が必要と判断しました。その際には、廃校となる学校をスクールバスの拠点とすることや、コミュニティバス等も利用できるかなど、総合的に判断をすることとしました。

中学校については、通学手段として自転車を利用する生徒が多いため、６ｋｍとしても概ね対応が可能と判断しました。

表－７ 適正配置にかかる通学距離

区分	小学校	中学校
国	概ね４km	概ね６km
旭市	概ね４km 通学時間を考慮し、通学手段を検討	概ね６km

※義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第４条

Ⅲ－２－３ 施設の有効利用

効率的な学校再編を実施するため、改修や増築等により既存学校施設を統合校として有効利用します。

ただし、統合の規模や立地条件等により新設を検討します。

Ⅲ－２－４ 学区について

現在の通学区域は、複雑に入り組んだ形状となっています。学区については、区域の見直しや、学校選択制※５のメリット・デメリットを踏まえた総合的な判断が必要となります。

従来の通学区域を基本に統合小・中学校の通学区域は残しつつ、小中学校の特色や立地状況に応じて学校を選択できるように検討します。ただし、学校選択制※５を採用する場合は、希望する学校までの通学については、保護者の責任のもとで通学することとします。

※５「学校選択制」：通常、市町村教育委員会は、その児童生徒が通学する学校を指定することになっている。

学校選択制は、通学する学校を指定する際に、あらかじめ保護者の意見を聴取して決定する制度。

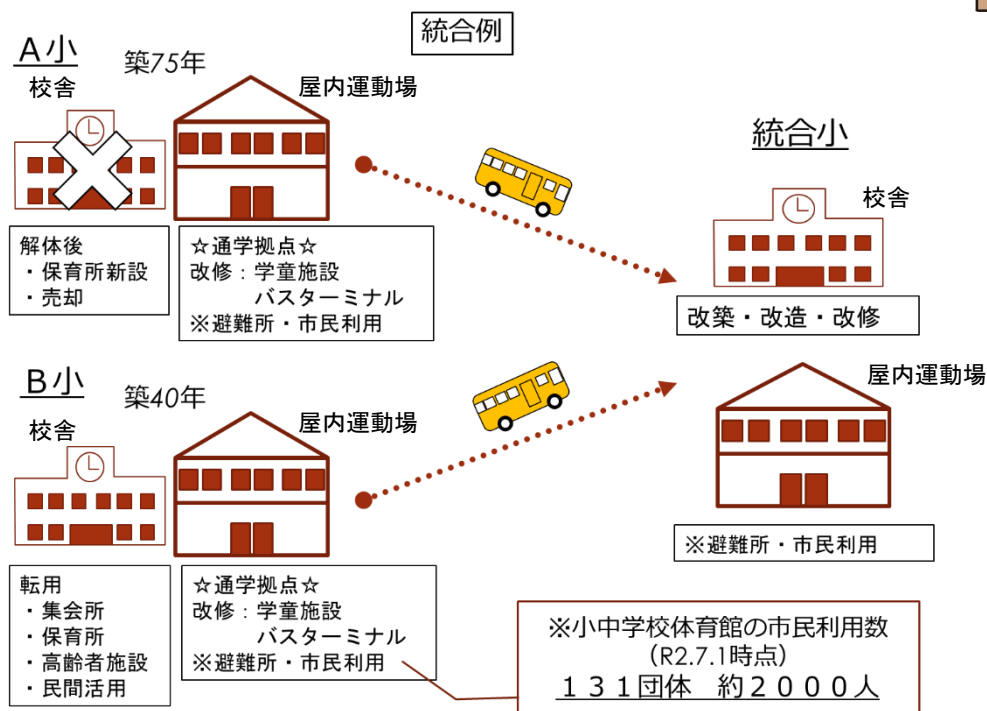
通学する学校を希望できるなど、柔軟な学校選択が可能となる。

Ⅲ－２－５ 統合に伴う通学方法と跡地活用

廃校となる小学校も活用を図っていきます。再編の状況にもよりますが、屋内運動場は、避難所等の地域のコミュニティ施設として活用するほか、通学にバスを利用した場合は、ターミナルとして位置づけ、そこまでは徒歩で集合してもらうなど、子どもたちの健康維持を図りつつ、通学手段の安全性や効率化を図ります。また、屋内運動場に学童施設を併設することで、地域の拠点や屋内運動場の有効利用も図っていきます。

再編に向けた検討項目

- ①小学校の通学方法は、廃校となる学校を拠点として、コミュニティバスやスクールバスを検討します。
- ②小学校の屋内運動場は、耐用年数や地域要件を踏まえ、避難所や学童施設・市民利用など、地域の拠点としての活用を検討します。
- ③中学校の通学方法は、自転車通学を基本として、立地状況などを踏まえた検討を行います。
- ④廃校となる校舎は、耐用年数や地域要件を踏まえつつ、跡地利用の検討や民間活用を推進を図っていきます。



図－８ 統合した場合の施設の活用例

Ⅲ-3 統合までのロードマップ(イメージ)

学校の統合までには、多くの手続きが必要となります。下の図は、そのイメージを表したものです。統合までに約5年程度の期間を要することとなります。

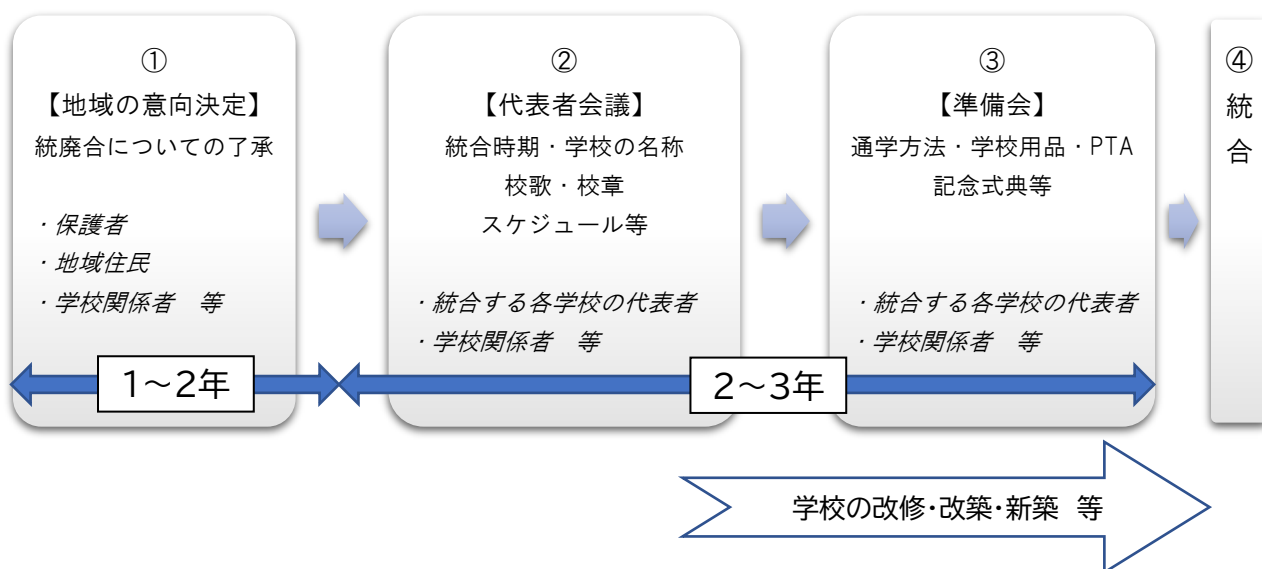


図-9 統合までのロードマップ

①地域の意向決定

各学校の保護者・地域の方から統廃合に対する意向を聞き、概ねの了承を得ます。

②代表者会議

地域の意向決定後、代表者会議を行い、新しい学校について、大まかな事項を決定していきます。

③準備会

代表者会議について決定した事項を基に、準備会において詳細な事項を決定していきます。

④統合

代表者会議で決定された統合時期により、各学校で統合を実施します。

※統合に併せて、校舎や屋内運動場の改修・改築または新築^{※6}等を決定していきます。

※6 「改修」：既存の建物の老朽化した箇所を修理・交換すること。一般的なリフォームの様なイメージ。

「改築」：老朽化した既存の建物を全部取り壊し、更地にしてから同様の建物を造ること。

「新築」：既存の建物が無い場所に新しく建物を造ること。

IV 小・中学校の再編

小・中学校の再編について、様々な観点、立場から検討してきました。現状を踏まえつつ、今後の児童生徒数の推計、現在の学区の状況、そして将来の旭市を担う子どもたちの教育環境の充実を図れるよう検討した結果、下記のとおりとしました。

統合の時期については、児童生徒数の推移や施設の耐用年数、地域の合意形成等を総合的に判断したうえで、できるだけ速やかに着手します。また、すべての再編について、遅くとも10年後には着手していきます。

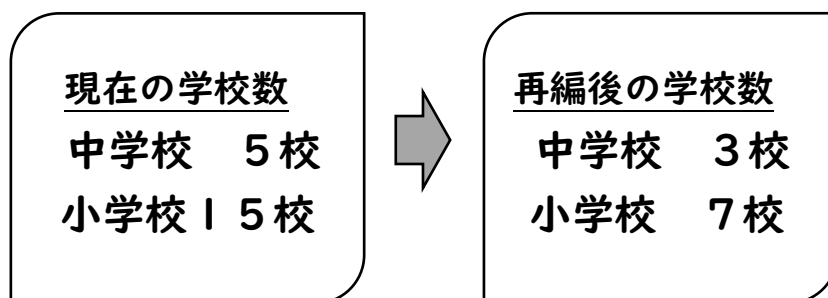


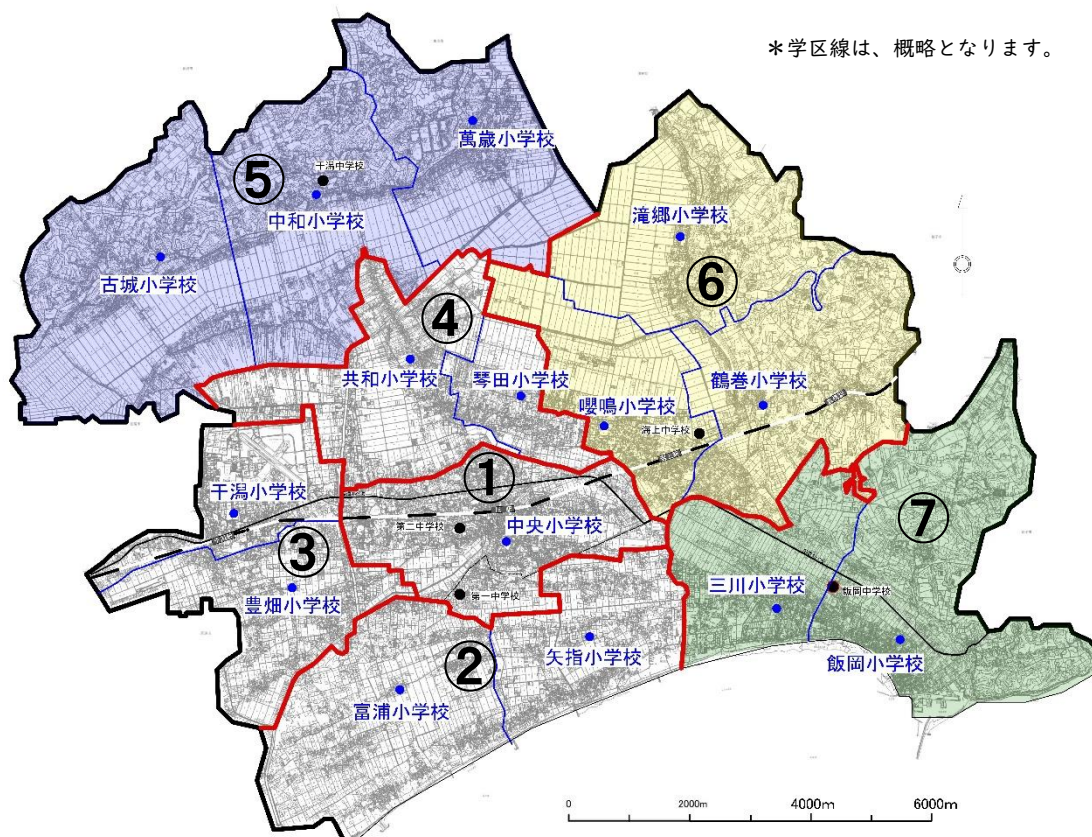
表 - 8 小・中学校の再編表

統合中学校(3校)	統合小学校(7校)	対象校
❶(仮称) 南統合中学校	①中央小	中央小
	②(仮称) 旭地域南小学校	富浦小・矢指小
	③(仮称) 旭地域西小学校	干潟小・豊畑小
❷(仮称) 北統合中学校	④(仮称) 旭地域北小学校	琴田小・共和小
	⑤(仮称) 干潟地域小学校	中和小・萬歳小・古城小
❸(仮称) 東統合中学校	⑥(仮称) 海上地域小学校	鶴巻小・滝郷小・嚶鳴小
	⑦(仮称) 飯岡地域小学校	三川小・飯岡小

※小学校は7校としましたが、小中一貫校を推進した場合、5校または6校となる可能性もあります。

V 小学校の再編

小学校は、15校から7校に再編します。全体計画は以下のとおりです。



図－10 小学校7校の再編図

表－9 統合小の候補地

統合小学校	対象校	再編後の学校の位置(候補)
①中央小	中央小	・中央小学校 ・第一中学校 ・第二中学校
②(仮称) 旭地域南小学校	富浦小・矢指小	・矢指小学校 ・第一中学校
③(仮称) 旭地域西小学校	千潟小・豊畑小	・千潟小学校
④(仮称) 旭地域北小学校	琴田小・共和小	・共和小学校
⑤(仮称) 千潟地域小学校	中和小・萬歳小・古城小	・古城小学校
⑥(仮称) 海上地域小学校	鶴巻小・滝郷小・嚶鳴小	・嚶鳴小学校 ・近隣市有地等の活用
⑦(仮称) 飯岡地域小学校	三川小・飯岡小	・飯岡中学校

V-1 児童数の推計

表-10は、統合小学校の児童数の推計と学級数を表したものです。早期に統合したとしても、単学級を抱える学校が発生し、適正規模（12～18学級）を維持することが難しくなる見込みとなります。旭市が設定した下限値（全校120人）を踏まえた学校運営をしていくことが必要となります。

表-10 児童数の推計（統合校別）

統合小学校	対象校	児童数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	備 考
			R 2	R 7	R 12	R 17	R 22	R 27	R 32	R 37	R 42	
① 中央小学校	中央小	児童数	677	696	643	596	554	500	446	406	375	※2020（R2）年は実績値。 ※2025（R7）年以降の児童数は推計値の合計。 ※学級数は1クラス35人として計算した数。（特別支援学級を含まない。） ※学級数の計算が6未満（全校210人）となる場合は6学級とする。 ・既存施設の活用性が高い。 ・各地域に小学校が残り、バランスが良い。 ・2030年には適正規模（12～18学級）を下回る学校もあるが、旭市が設定した下限値（全校120人）には達していない。
		学級数	20	20	19	18	16	15	13	12	11	
②（仮称）旭地域南小学校	富浦小・矢指小	児童数	302	308	275	242	221	200	178	156	137	
		学級数	12	9	8	7	7	6	6	6	6	
③（仮称）旭地域西小学校	干潟小・豊畑小	児童数	447	346	303	273	251	228	210	193	174	
		学級数	17	10	9	8	8	7	6	6	6	
④（仮称）旭地域北小学校	琴田小・共和小	児童数	400	383	352	324	302	281	265	247	227	
		学級数	16	11	11	10	9	9	8	8	7	
⑤（仮称）干潟地域小学校	中和小・萬歳小 古城小	児童数	306	236	199	178	163	143	125	109	96	
		学級数	18	7	6	6	6	6	6	6	6	
⑥（仮称）海上地域小学校	鶴巻小・滝郷小 嚙鳴小	児童数	539	468	416	386	362	335	309	281	250	
		学級数	24	14	12	12	11	10	9	9	8	
⑦（仮称）飯岡地域小学校	三川小・飯岡小	児童数	368	327	294	265	243	222	203	182	159	
		学級数	14	10	9	8	7	7	6	6	6	

V-2 小学校再編の時期

再編の時期は、各学校の児童数や施設の建築年数、劣化状況を考慮して「短期」「中期・長期」としました。また、短期とした統合小学校は、既存の施設を活用するため、比較的早期に着手が可能と判断しました。中期・長期とした統合小学校は、統合小学校に既存中学校を利用することや、学校の新設も検討することとなっているため、状況に応じて実施します。

いずれの学校もできるだけ速やかに着手し、「中期・長期」の学校についても、遅くとも2030年には着手することとします。統合の時期については、下表の時期（青線）に統合校の開校ができるように進めていきます。

表-11 開校の時期（統合小学校別）

7校	2025	2030	2035	2040
①中央小				
②（仮称）旭南地域小学校				
③（仮称）旭西地域小学校				
④（仮称）旭北地域小学校				
⑤（仮称）干潟地域小学校				
⑥（仮称）海上地域小学校				
⑦（仮称）飯岡地域小学校				

V-3 各小学校の再編について

V-3-1 ①中央小学校

中央小学校は、大規模校となっていますが、2035年には適正規模になってくるため、中央小学校は今後も1校で運営していきます。ただし、現在の小学校は古い校舎があり、建替えが必要となるほか、借地も多くあります。現校舎は、建替えが必要となる時期まで利用しつつ、今後の方向性について、第一中学校と第二中学校を移転先の候補地として含めながら検討します。

1 学校の位置関係

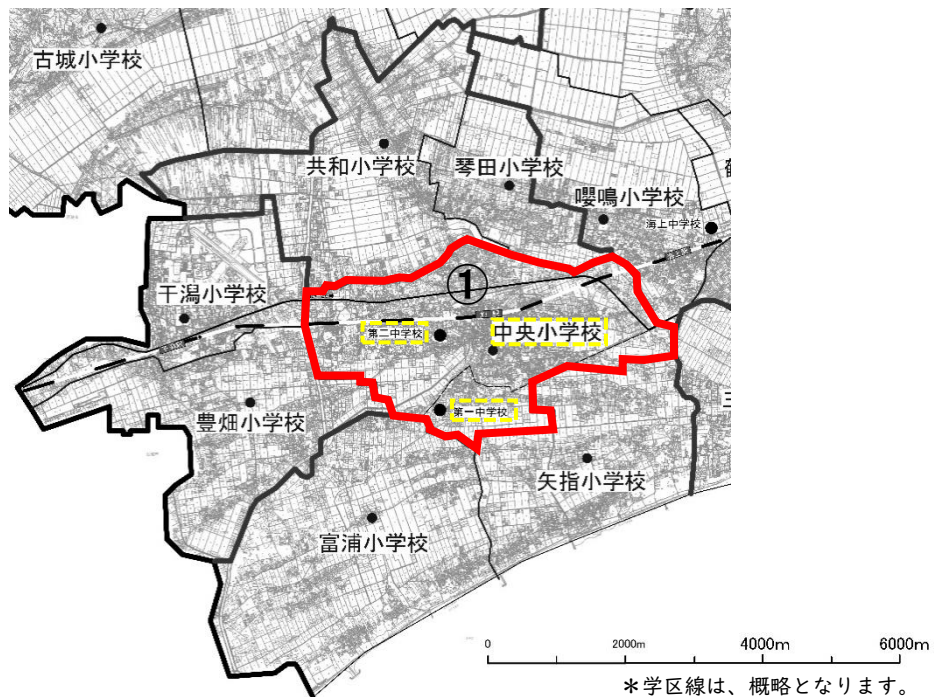


図-11 中央小の位置

中央小学校は、JR旭駅に近く、住宅地の中央に建っているため、通学距離が短い児童が多いことが特徴的です。中央第一保育所と隣接していますが、小学校の敷地の約4分の1が借地となっています。また、児童数は多いものの、住宅地に囲まれた土地のため、拡張の可能性が低くなっています。立地的には、小学校のほか多様な土地活用が考えられる場所です。

2 児童数の推移

児童数の推計を見ますと、減少傾向となるものの、2055年までは適正規模を維持する見込みです。

表-12 児童数の推移（中央小学校）

統合小学校	対象校	児童数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R 2	R 7	R 12	R 17	R 22	R 27	R 32	R 37	R 42
① 中央小学校	中央小	児童数	677	696	643	596	554	500	446	406	375
		学級数	20	20	19	18	16	15	13	12	11

※2020年の児童数・学級数は実績値。

2025年以降の児童数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。（特別支援学級を含まない。）

3 学校施設の状況

中央小学校は、2040年頃には耐用年数を迎える校舎があり、建替えか、移転を実施するかを検討します。借地が約4500㎡あるため、隣接する中央第一保育所を含めて今後の土地活用を再検討する必要があります。

表 - 13 施設の状況（中央小学校・第一中学校・第二中学校）

※中央小学校

※青塗：築後20年未満 → 黄塗：築後50年 → 赤塗：築後80年未満 → 黒塗：築後80年以上（長寿命化工事をしても耐用年数は80年）

学校教育関連施設	校名	棟名	延床	建築年	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
中央小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【27】 ・敷地面積【21,720㎡】 ・上記のうち借地面積【4,546㎡】 ・屋内運動場面積【1,370㎡】 ・プール 有【S63年築】 ・隣接公共施設【中央第一保育所】	南校舎	1128	1965(S40)	55	60	65	70	75					
	南校舎	894	1963(S38)	57	62	67	72	77					
	南校舎	855	1979(S54)	41	46	51	56	61	66	71	76		
	特別教室棟	622	1971(S46)	49	54	59	64	69	74	79			
	特別教室棟	727	1983(S58)	37	42	47	52	57	62	67	72	77	
	校舎	622	1989(H1)	31	36	41	46	51	56	61	66	71	
	北校舎	2195	2010(H22)	10	15	20	25	30	35	40	45	50	
	屋内運動場	1370	2000(H12)	20	25	30	35	40	45	50	55	60	
	地域・学校連携施設	288	2000(H12)	20	25	30	35	40	45	50	55	60	

※候補となる学校(第一中学校)

※青塗：築後20年未満 → 黄塗：築後50年 → 赤塗：築後80年未満 → 黒塗：築後80年以上（長寿命化工事をしても耐用年数は80年）

学校教育関連施設	校名	棟名	延床	建築年	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
第一中学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【15】 ・敷地面積【28,929㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,812㎡】 ・プール 有【S46年築】 ・隣接公共施設【無】	教室棟	3096	1979(S54)	41	46	51	56	61	66	71	76		
	管理教室棟	2561	1980(S55)	40	45	50	55	60	65	70	75		
	柔剣道場	1451	1990(H2)	30	35	40	45	50	55	60	65	70	
	屋内運動場	1812	2010(H22)	10	15	20	25	30	35	40	45	50	
	部室棟	166	1993(H5)	27	32	37	42	47	52	57	62	67	
	プール付属棟	109	1971(S46)	49	54	59	64	69	74	79			

※候補となる学校(第二中学校)

※青塗：築後20年未満 → 黄塗：築後50年 → 赤塗：築後80年未満 → 黒塗：築後80年以上（長寿命化工事をしても耐用年数は80年）

学校教育関連施設	校名	棟名	延床	建築年	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
第二中学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【28】 ・敷地面積【34,460㎡】 ・上記のうち借地面積【76㎡】 ・屋内運動場面積【1,799㎡】 ・プール 有【S60年築】 ・近隣公共施設【中央第二保育所】	特別教室棟・プール付属室	2350	1985(S60)	35	40	45	50	55	60	65	70	75	
	教室棟	3840	2008(H20)	12	17	22	27	32	37	42	47	52	
	管理教室棟	1641	2008(H20)	12	17	22	27	32	37	42	47	52	
	情報処理棟	463	1991(H3)	29	34	39	44	49	54	59	64	69	
	技術室・柔剣道場	1186	1979(S54)	41	46	51	56	61	66	71	76		
	屋内運動場	1799	2007(H19)	13	18	23	28	33	38	43	48	53	
	部室棟	198	2009(H21)	11	16	21	26	31	36	41	46	51	
	連絡通路	232	2008(H20)	12	17	22	27	32	37	42	47	52	

4 統合小の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
中央小学校	・児童数に応じた施設の容量は確保できる。 ・校舎が2040年頃に耐用年数を迎えるため、建替えが必要となる。 ・借地が多く、毎年の借地料が発生するため、ランニングコストが他校より割高となる。
第一中学校	・比較的新しい校舎が多く、活用が可能だが、小学校に転用するための工事が必要。 ・2040年頃の児童数となれば現施設の容量で利用可能となる。 ・周辺に住宅地が密集していないため、土地の拡張性はやや高い。 ・中央小学区の南端にあるため、立地的にはバランスが良くない。
第二中学校	・児童数に応じた施設の容量は確保できる。 ・比較的新しい校舎が多く、活用が可能だが、小学校に転用するための工事が必要。 ・敷地が広く、多様な活用が図れる。

V-3-2 ②(仮称)旭地域南小学校

(仮称)旭地域南小学校は、富浦小学校と矢指小学校を統合し、矢指小学校と第一中学校を統合校の候補地として検討します。

1 学校の位置関係

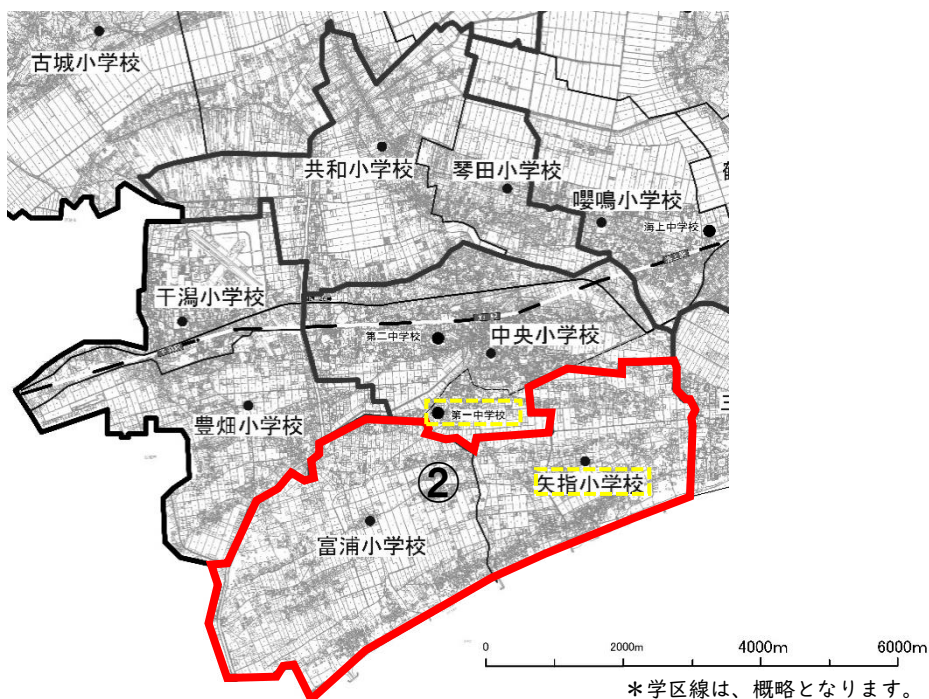


図-12 (仮称)旭地域南小学校の位置

富浦小学校と矢指小学校は、旭地域の海沿いに位置しています。学区は東西に長くなりますが、どちらの小学校も保育所が近く、特に富浦小学校は富浦保育所が隣接しているため、今後の利活用が図りやすくなっています。

さらに、(県道)飯岡片貝線沿いに建っていることから、両校のアクセス性が良く、通学手段も検討しやすいことが挙げられます。

2 児童数の推移

児童数の推計を見ますと、富浦小学校のほうが児童数は多い状況となっています。2校を統合した場合でも、12学級の確保は難しい状況で、2060年には137人となる見込みですが、本市が設定した下限(1学級20人程度)よりは上回る推計となっています。

表-14 児童数の推移(旭地域南小学校)

統合小学校	対象校	児童数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
②(仮称)旭地域南小学校	富浦小	児童数	166	158	137	122	111	99	89	79	69
	矢指小	児童数	136	150	138	120	110	101	89	77	68
	合 計	児童数	302	308	275	242	221	200	178	156	137
		学級数	12	9	8	7	7	6	6	6	6

※2020年の児童数・学級数は実績値。

2025年以降の児童数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。(特別支援学級を含まない。)

3 学校施設の状況

富浦小学校は、2045年頃には耐用年数を迎える校舎が多く、それまでには建替えが必要となります。また、借地も約5000㎡あることから、隣接する富浦保育所を含めて今後の土地活用を検討する必要があります。

表 - 15 施設の状況（富浦小学校・矢指小学校）

* 富浦小学校

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
富浦小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【13】 ・敷地面積【21,143㎡】 ・上記のうち借地面積【5,018㎡】 ・屋内運動場面積【965㎡】 ・プール 有【S48年築】 ・隣接公共施設【富浦保育所】	管理教室棟	1318	1966(S41)	54	59	64	69	74	79			
	管理教室棟	940	1970(S45)	50	55	60	65	70	75			
	屋内運動場	965	1982(S57)	38	43	48	53	58	63	68	73	78
	特別教室棟	360	1997(H9)	23	28	33	38	43	48	53	58	63

* 候補となる学校(矢指小学校)

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
矢指小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【9】 ・敷地面積【23,032㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,857㎡】 ・プール 有【S49年築】 ・近隣公共施設【日の出保育所・日の出山公園】	屋内運動場	1011	1993(H5)	27	32	37	42	47	52	57	62	67
	管理教室棟	1648	2011(H23)	9	14	19	24	29	34	39	44	49
	管理教室棟	1857	2011(H23)	9	14	19	24	29	34	39	44	49
	地域・学校連携室	249	1993(H5)	27	32	37	42	47	52	57	62	67

* 候補となる学校(第一中学校)

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
第一中学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【15】 ・敷地面積【28,929㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,812㎡】 ・プール 有【S46年築】 ・隣接公共施設【無】	教室棟	3096	1979(S54)	41	46	51	56	61	66	71	76	
	管理教室棟	2561	1980(S55)	40	45	50	55	60	65	70	75	
	柔剣道場	1451	1990(H2)	30	35	40	45	50	55	60	65	70
	屋内運動場	1812	2010(H22)	10	15	20	25	30	35	40	45	50
	部室棟	166	1993(H5)	27	32	37	42	47	52	57	62	67
	プール付属棟	109	1971(S46)	49	54	59	64	69	74	79		

4 統合小の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
矢指小学校	・児童数に応じた施設の容量は確保できるが、特別支援学級の学級数により改修が必要となる可能性がある。 ・建物が新しく、今後も長期間で活用ができる。 ・プールはＳ４９年築であるため、改修が必要となる。
第一中学校	・児童数に応じた施設の容量は確保できる。 ・比較的新しい校舎が多く、活用が可能だが、小学校に転用するための工事が必要。 ・周辺に住宅地が密集していないため、土地の拡張性はやや高い。 ・富浦小、矢指小の進学中学校であるため、統合小学校となっても違和感が少ない。 ・立地が富浦小、矢指小学区の外側にあり通学方法の検討が必要。 ・中央小との位置関係が近くなり、学校の配置バランスが悪くなる。

V-3-3 ③(仮称)旭地域西小学校

(仮称) 旭地域西小学校は、干潟小学校と豊畑小学校を統合し、干潟小学校を統合校の候補地として検討します。

1 学校の位置関係

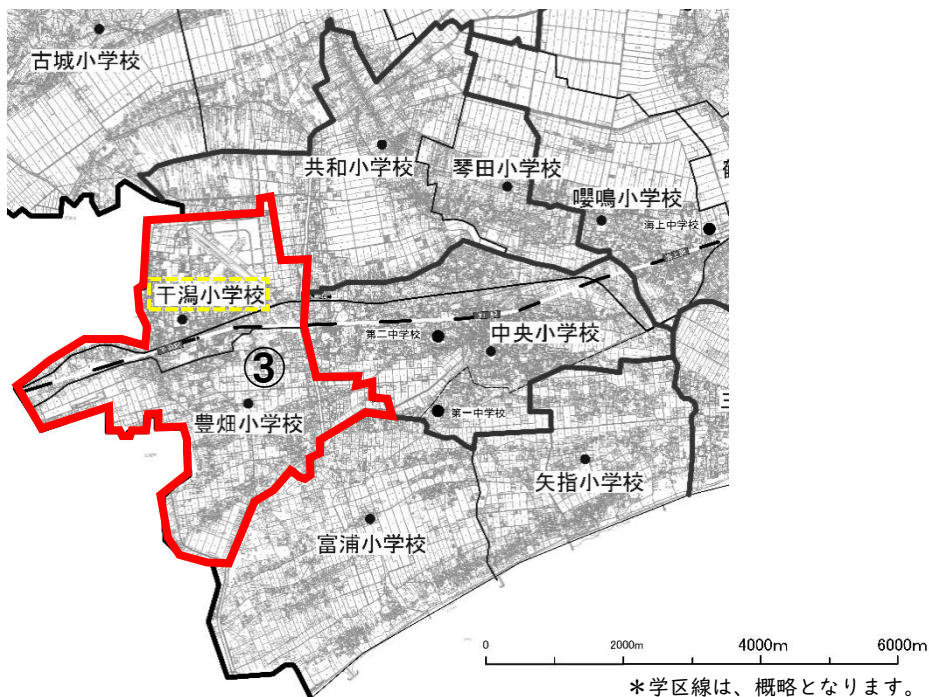


図-13 (仮称)旭地域西小学校の位置

干潟小学校と豊畑小学校は、旭地域の西側に位置しています。学区は南北に長いものの、比較的バランスの取れた形になっています。干潟小学校は旭市都市計画区域の第一種住居地域（用途地域）にあり、学校の周辺は新たな住宅地が形成されています。

2 児童数の推移

児童数の推計を見ると、どちらの小学校もある程度の児童数があるものの、2校を統合した場合でも、12学級の確保は難しい状況となります。干潟小学校の児童数は2025年になると大幅に減少する見込みとなっていますが、実績値が推計ほど減少していないため、減少傾向は鈍化する可能性があります。

表-16 児童数の推移（旭地域西小学校）

統合小学校	対象校	児童数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
③(仮称)旭地域西小学校	干潟小	児童数	265	186	161	147	136	124	117	110	100
	豊畑小	児童数	182	160	142	126	115	104	93	83	74
	合 計	児童数	447	346	303	273	251	228	210	193	174
		学級数	17	10	9	8	8	7	6	6	6

※2020年の児童数・学級数は実績値。

2025年以降の児童数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。（特別支援学級を含まない。）

3 学校施設の状況

豊畑小学校は、四方を田畑に囲まれるように建っています。2040年頃には耐用年数を迎える校舎が多く、全体的に老朽化が進んでいます。干潟小学校も2050年には耐用年数を迎える校舎があるため、建替えが必要となります。

表 - 17 施設の状況（豊畑小学校・干潟小学校）

* 豊畑小学校

※青塗: 築後20年未満 → 黄塗: 築後50年 → 赤塗: 築後80年未満 → 黒塗: 築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
豊畑小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【12】 ・敷地面積【17,156㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【934㎡】 ・プール 有【S51年築】 ・近隣公共施設【ゆたか保育所】	管理教室棟	240	1968(S43)	52	57	62	67	72	77			
	管理教室棟	1194	1967(S42)	53	58	63	68	73	78			
	教室棟	609	1961(S36)	59	64	69	74	79				
	特別教室棟	712	1986(S61)	34	39	44	49	54	59	64	69	74
	屋内運動場	934	1980(S55)	40	45	50	55	60	65	70	75	

* 候補となる学校(干潟小学校)

※青塗: 築後20年未満 → 黄塗: 築後50年 → 赤塗: 築後80年未満 → 黒塗: 築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
干潟小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【15】 ・敷地面積【21,176㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・体育館面積【1,067㎡】 ・プール 有【S51年築】 ・隣接公共施設【無】	管理教室棟	2112	1973(S48)	47	52	57	62	67	72	77		
	管理教室棟	1240	1980(S55)	40	45	50	55	60	65	70	75	
	体育館	1067	1994(H6)	26	31	36	41	46	51	56	61	66
	地域・学校連携施設	253	1994(H6)	26	31	36	41	46	51	56	61	66

4 統合小の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
干潟小学校	・児童数に応じた施設の容量は確保できる。 ・校庭の形状がいびつなため、校舎の建替えの際は、旧保育所跡地の有効利用を図ることが必要。 ・出入口に進入するための道路がやや狭い。

V-3-4 ④(仮称)旭地域北小学校

(仮称) 旭地域北小学校は、琴田小学校と共和小学校を統合し、共和小学校を統合校の候補地として検討します。

1 学校の位置関係

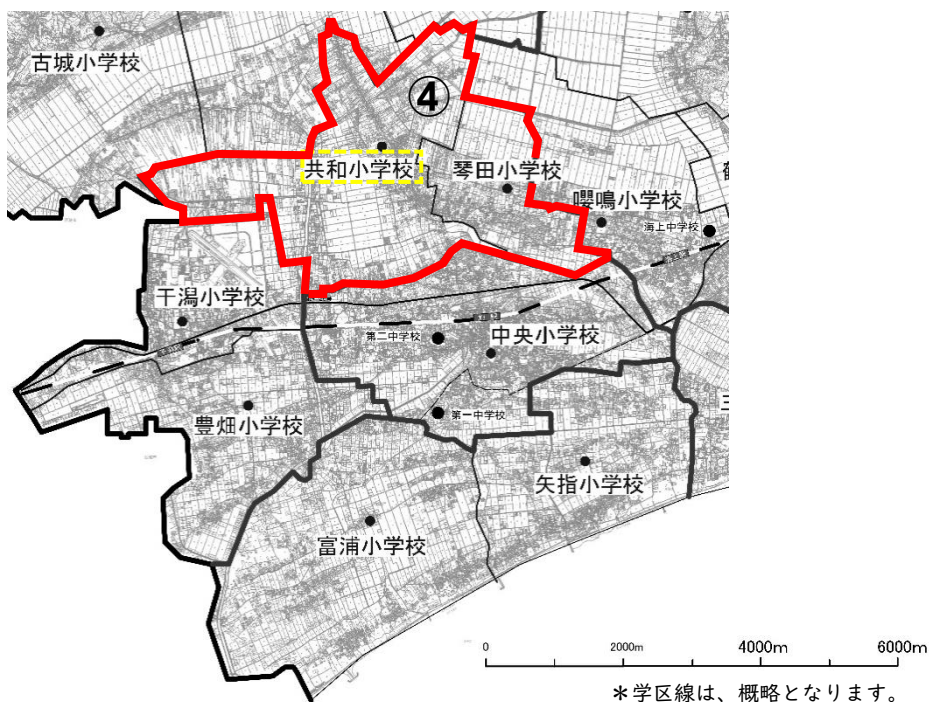


図-14 (仮称) 旭地域北小学校の位置

琴田小学校と共和小学校は、旭地域の北側に位置しています。学区は東西に長くなります。共和小学校の学区の形状がいびつであったこともあり、学区の見直しも検討項目として挙げられます。主要な道路沿いに住宅地が集中していることが特徴的な地区です。

2 児童数の推移

児童数の推計を見ますと、どちらの小学校もある程度の児童数があるものの、2校を統合した場合でも、12学級の確保は難しい状況となります。

表-18 児童数の推移(旭地域北小学校)

統合小学校	対象校	児童数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
④(仮称) 旭地域北小学校	琴田小	児童数	143	148	141	132	126	120	116	111	104
	共和小	児童数	257	235	211	192	176	161	149	136	123
	合 計	児童数	400	383	352	324	302	281	265	247	227
		学級数	16	11	11	10	9	9	8	8	7

※2020年の児童数・学級数は実績値。

2025年以降の児童数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。(特別支援学級を含まない。)

3 学校施設の状況

琴田小学校は、共和小学校に比べ、校舎は新しいものが多いですが、統合後の児童数を賄える教室数が足りていません。また、敷地面積も狭い反面、土地の拡張が難しい状況です。共和小学校も2040年には耐用年数を迎える校舎があるため、建替えが必要となります。隣接する共和保育所の再編状況により敷地の有効活用を図っていきます。

表 - 19 施設の状況（琴田小学校・共和小学校）

* 琴田小学校

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしてても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
琴田小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【9】 ・敷地面積【14,707㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【990㎡】 ・プール 有【S51年築】 ・隣接公共施設【無】	管理教室棟	975	1969(S44)	51	56	61	66	71	76			
	管理教室棟	392	1988(S63)	32	37	42	47	52	57	62	67	72
	特別教室棟	877	1981(S56)	39	44	49	54	59	64	69	74	79
	屋内運動場	990	1992(H4)	28	33	38	43	48	53	58	63	68

* 候補となる学校(共和小学校)

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしてても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
共和小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【13】 ・敷地面積【20,151㎡】 ・上記のうち借地面積【2083㎡】 ・屋内運動場面積【720㎡】 ・プール 有【S54年築】 ・隣接公共施設【共和保育所】	校舎	1302	1964(S39)	56	61	66	71	76				
	校舎	515	1967(S42)	53	58	63	68	73	78			
	校舎	367	1968(S43)	52	57	62	67	72	77			
	特別教室棟	366	1998(H10)	22	27	32	37	42	47	52	57	62
	屋内運動場	720	1978(S53)	42	47	52	57	62	67	72	77	

4 統合小の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
共和小学校	・児童数に応じた施設の容量は確保できるが、耐用年数を踏まえると建替えが必要となるため、敷地の有効利用や小中一貫校等の検討も考えられます。 ・借地面積が比較的多い。

V-3-5 ⑤(仮称)干潟地域小学校

(仮称)干潟地域小学校は、中和小、萬歳小、古城小を1校に統合します。統合する場所については、校舎の状況や立地を踏まえ、古城小学校を統合小の候補地として検討します。

1 学校の位置関係

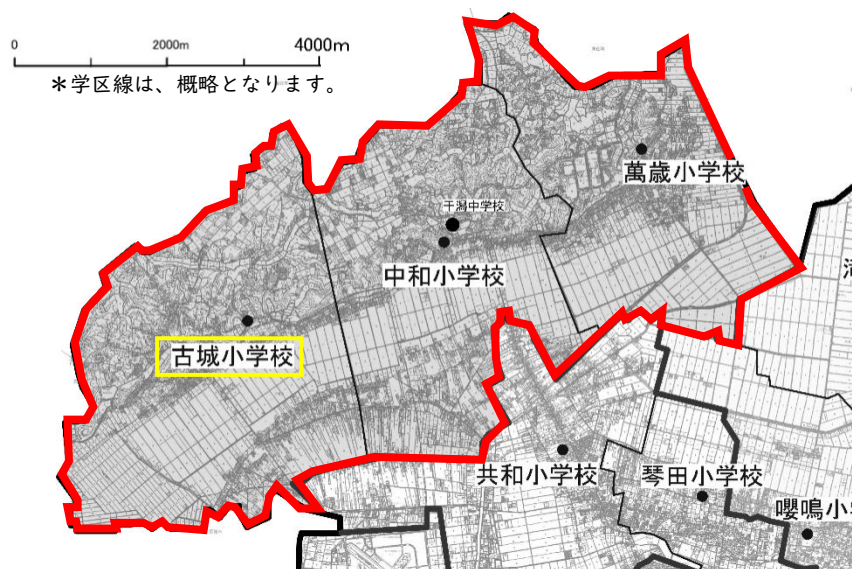


図-15 干潟地域統合小学校の位置

干潟地域の小学校は、どの学校も学区のほぼ中央に位置し、その南側は水田、北側は丘陵地となっているため、その間を通る県道の沿線に住宅が集中しています。どの学校も土砂災害警戒区域のエリアに入っていますが、古城小学校は一部分であるため、その対応を検討したうえで統合校として活用を図ります。

2 児童数の推移

干潟地域の児童数は、古城小学校がやや多いものの、どの学校も減少傾向が大きいことがわかります。そのため、複式学級となる前に早期の統合が必要となります。

表-20 児童数の推移（中和小学校・萬歳小学校・古城小学校）

統合小学校	対象校	児童数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R 2	R 7	R 12	R 17	R 22	R 27	R 32	R 37	R 42
⑤（仮称）干潟地域小学校	中和小	児童数	106	66	56	49	44	40	36	31	27
	萬歳小	児童数	78	66	53	49	46	41	36	31	27
	古城小	児童数	122	104	90	80	73	62	53	47	42
	合 計	児童数	306	236	199	178	163	143	125	109	96
		学級数	18	7	6	6	6	6	6	6	6

※2020年の児童数・学級数は実績値。

2025年以降の児童数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。（特別支援学級を含まない。）

3 各学校施設の状況

干潟地域の小学校は、昭和の後半以降に建築されたものが多く、2040年でも利用できる施設となっています。また、どの小学校も統合後の児童数を賄える教室数はあるものの、中和小と萬歳小は敷地面積が極端に狭いことがわかります。立地を見ると、3校とも土砂災害警戒区域にあり、近年の豪雨災害を踏まえ、安全面を考慮した場合、古城小学校を統合小学校の候補地として検討していきます。

表-21 施設の建築経過年数（中和小学校・萬歳小学校・古城小学校）

* 中和小学校

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
中和小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【8】 ・敷地面積【6,861㎡】 ・上記のうち借地面積【2,798㎡】 ・屋内運動場面積【766㎡】 ・プール【無】 ・隣接公共施設【無】	管理教室棟	2515	1988(S63)	32	37	42	47	52	57	62	67	72
	屋内運動場	766	1988(S63)	32	37	42	47	52	57	62	67	72

* 萬歳小学校

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
萬歳小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【11】 ・敷地面積【9,687㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,090㎡】 ・プール 有【S39年築】 ・隣接公共施設【無】	管理教室棟	2738	1990(H2)	30	35	40	45	50	55	60	65	70
	屋内運動場	1090	1997(H9)	23	28	33	38	43	48	53	58	63

* 候補となる学校(古城小学校)

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

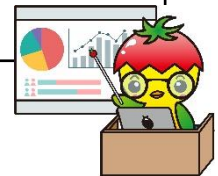
学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
古城小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【11】 ・敷地面積【13,740㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,149㎡】 ・プール 有【H2年築】 ・隣接公共施設【無】	管理教室棟	3059	1993(H5)	27	32	37	42	47	52	57	62	67
	屋内運動場	1149	2004(H16)	16	21	26	31	36	41	46	51	56

4 統合小の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
古城小学校	・ 屋内運動場の一部が土砂災害警戒区域に入っているため、対応を検討する必要がある。 ・ 立地が学区の西側にあるため、通学方法の検討が必要となる。 ・ 敷地が他の2校よりも広く、形状が良い。

統合中学校を新設するにあたっての将来性

干潟地域は、統合小学校の児童数も減少傾向にあります。（仮称）北統合中学校が新設され、（仮称）旭地域北小学校も児童数が減少した際には、さらなる統合の可能性もあります。その際は、統合中学校との連携も図りやすくなるため、**小中一貫校**を検討していきます。



V-3-6 ⑥(仮称)海上地域小学校

(仮称)海上地域小学校は、鶴巻小、滝郷小、嚶鳴小を1校に統合します。統合する場所については、地域の実状を鑑みながら、嚶鳴小もしくは近隣市有地等を検討します。

1 学校の位置関係



図-16 (仮称)海上地域小学校の位置

海上地域の小学校は、各校ともバランスが取れた位置にあります。統合後の学区の形状も整っていますが、嚶鳴小地区に住宅地が密集する傾向にあります。そのため、児童数を踏まえると嚶鳴小への統合が考えられますが、立地的に偏っているため、旧海上中跡地のほか、地域のバランスが取れる場所の検討も必要となります。

2 児童数の推移

嚶鳴小学校周辺の住宅化が進んでいるため、嚶鳴小の児童数が突出しています。今後も、人口の偏りが顕著になると見込まれます。

表-22 児童数の推移(海上地域)

統合小学校	対象校	児童数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
⑥(仮称)海上地域小学校	鶴巻小	児童数	97	118	111	99	92	85	77	67	58
	滝郷小	児童数	87	77	68	62	59	53	45	39	33
	嚶鳴小	児童数	355	273	237	225	211	197	187	175	159
	合 計	児童数	539	468	416	386	362	335	309	281	250
		学級数	24	14	12	12	11	10	9	9	8

※2020年の児童数・学級数は実績値。

2025年以降の児童数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。(特別支援学級を含まない。)

3 学校施設の状況

海上地域の小学校は、滝郷小の校舎が古く、2040年には耐用年数を迎える状況となります。それまでには再編を完了する必要があると考えられます。どの小学校も統合後の児童数を賄える教室数がありません。よって、児童数を踏まえると、統合となる学校の候補は嚶鳴小となりますが、その他の土地も踏まえた総合的な判断が必要となります。

表 - 23 施設の状況（鶴巻小学校・滝郷小学校・嚶鳴小学校）

* 鶴巻小学校

※青塗: 築後20年未満 → 黄塗: 築後50年 → 赤塗: 築後80年未満 → 黒塗: 築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
鶴巻小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【9】 ・敷地面積【19,339㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,081㎡】 ・プール 有【H6年築】 ・隣接公共施設【海上配水場(水道)】	普通・特別教室棟	2319	1979(S54)	41	46	51	56	61	66	71	76	
	特別教室棟	166	1981(S56)	39	44	49	54	59	64	69	74	79
	屋内運動場	1081	1988(S63)	32	37	42	47	52	57	62	67	72

* 滝郷小学校

※青塗: 築後20年未満 → 黄塗: 築後50年 → 赤塗: 築後80年未満 → 黒塗: 築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
滝郷小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【11】 ・敷地面積【15,367㎡】 ・上記のうち借地面積【2,363㎡】 ・屋内運動場面積【1,081㎡】 ・プール 有【S46年築】 ・隣接公共施設【無】	教室棟	661	1964(S39)	56	61	66	71	76				
	教室棟	571	1969(S44)	51	56	61	66	71	76			
	特別教室棟	1185	1982(S57)	38	43	48	53	58	63	68	73	78
	屋内運動場	1081	1991(H3)	29	34	39	44	49	54	59	64	69

* 候補となる学校(嚶鳴小学校)

※青塗: 築後20年未満 → 黄塗: 築後50年 → 赤塗: 築後80年未満 → 黒塗: 築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

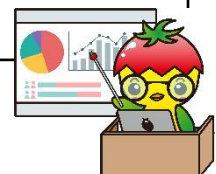
学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
嚶鳴小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【13】 ・敷地面積【18,231㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,091㎡】 ・プール 有【S46年築】 ・隣接公共施設【無】	普通教室棟	2358	1976(S51)	44	49	54	59	64	69	74	79	
	特別教室棟	808	1994(H6)	26	31	36	41	46	51	56	61	66
	特別教室棟	238	2002(H14)	18	23	28	33	38	43	48	53	58
	屋内運動場	1091	1985(S60)	35	40	45	50	55	60	65	70	75

4 統合小の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
嚶鳴小学校	・児童数に応じた施設の容量が確保できないため、増築等が必要となります。 ・耐用年数を踏まえると建替えが必要となるため、その他の土地も踏まえた検討が必要となる。その際は小中一貫校等の検討も考えられます。
近隣市有地等の活用	・近隣市有地は有効活用できますが、排水対策等が必要となります。 ・将来、小中一貫校等を踏まえると、その他の近隣市有地を含めた新たな候補地の検討も必要となります。 ※旧海上中学校跡地：約27,000㎡（公簿面積） 平成30年の学校跡地検討委員会の報告書では、「民間活用による住居系を中心とした複合施設」として活用例が示されています。

統合中学校を新設するにあたっての将来性

海上地域と飯岡地域は、それぞれの統合小学校の児童数も減少傾向にあります。海上地域統合小学校が新設された場合、立地によっては、統合中学校との連携も図りやすくなるため、将来的な児童生徒数の推移を見据えながら、海上地域と飯岡地域を一体化させた**小中一貫校**を検討していきます。



V-3-7 ⑦(仮称)飯岡地域小学校

(仮称)飯岡地域小学校は、三川小、飯岡小を1校に統合します。統合する場所については、校舎の状況や立地を踏まえ、飯岡中学校を移転先として検討します。

1 学校の位置関係

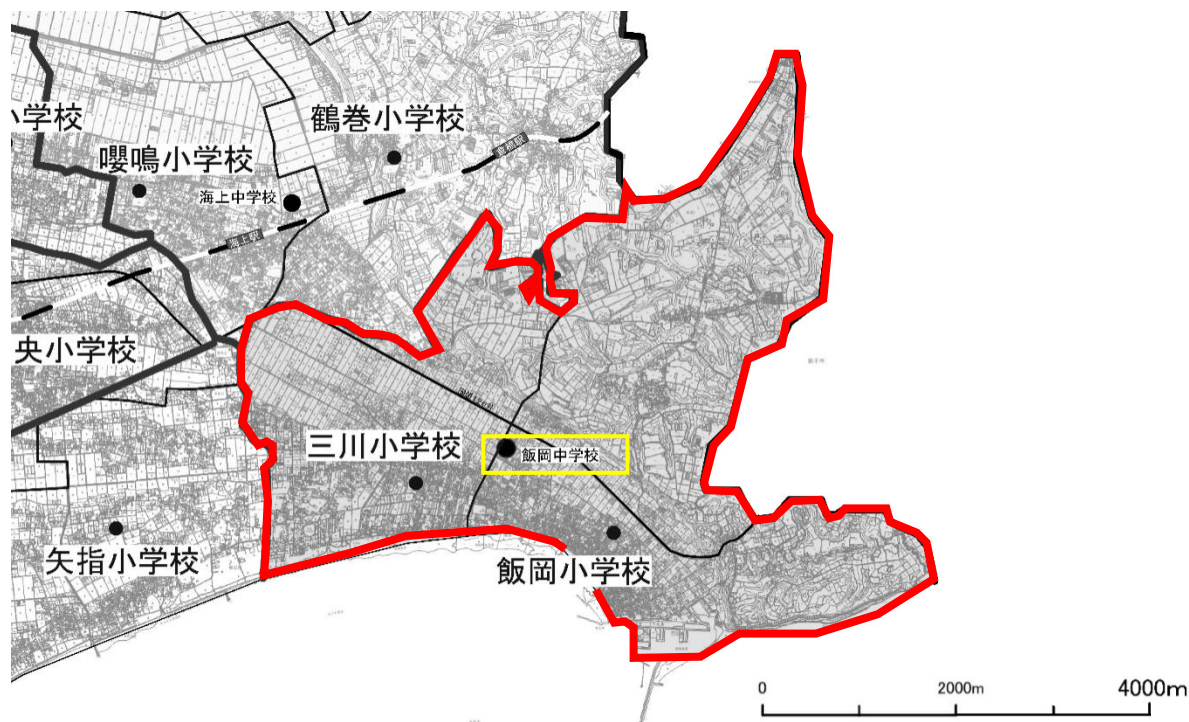


図-17 飯岡地域統合小学校の位置

飯岡地域の小学校は、両校とも地域のやや南に位置しています。統合後の学区も入り組んだ形状となっている反面、国道126号以南に住宅地が集中していることから、飯岡中学校を統合校とした場合も、塙地区や上永井地区からの通学手段の検討が必要となります。

2 児童数の推移

どちらの小学校も、ほとんどの学年が単学級となっています。飯岡小学校の減少率がやや高いものの、概ね同じような減少傾向となっています。

表-24 児童数の推移（三川小学校・飯岡小学校）

統合小学校	対象校	児童数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
⑦(仮称)飯岡地域小学校	三川小	児童数	172	167	157	145	136	127	120	110	99
	飯岡小	児童数	196	160	137	120	107	95	83	72	60
	合 計	児童数	368	327	294	265	243	222	203	182	159
		学級数	14	10	9	8	7	7	6	6	6

※2020年の児童数・学級数は実績値。

2025年以降の児童数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。(特別支援学級を含まない。)

3 学校施設の状況

飯岡地域の小学校は、昭和の後半以降に建築されたものが多く、2040年以降でも利用できますが、改修工事等が必要となります。また、どの小学校も統合後の児童数を賄える教室数はあるものの、飯岡小は校舎とグラウンドが道路で分断されているなどの立地的制約があります。そのため、学区のほぼ中央に位置し、市内で一番新しい学校である飯岡中学校を統合小の候補としました。

表 - 25 施設の建築経過年数（三川小学校・飯岡小学校・飯岡中学校）

* 三川小学校

※青塗: 築後20年未満 → 黄塗: 築後50年 → 赤塗: 築後80年未満 → 黒塗: 築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
三川小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【12】 ・敷地面積【22,699㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,183㎡】 ・プール 有【S39年築】 ・隣接公共施設【無】	管理教室棟	1898	1999(H11)	21	26	31	36	41	46	51	56	61
	特別教室棟	1537	1980(S55)	40	45	50	55	60	65	70	75	
	屋内運動場	1183	1988(S63)	32	37	42	47	52	57	62	67	72

* 飯岡小学校

※青塗: 築後20年未満 → 黄塗: 築後50年 → 赤塗: 築後80年未満 → 黒塗: 築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
飯岡小学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【17】 ・敷地面積【19,084㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,078㎡】 ・プール 有【S49年築】 ・隣接公共施設【無】	管理教室棟	3160	1977(S52)	43	48	53	58	63	68	73	78	
	教室棟	1094	1993(H5)	27	32	37	42	47	52	57	62	67
	特別教室棟	310	1983(S58)	37	42	47	52	57	62	67	72	77
	屋内運動場	1078	1994(H6)	26	31	36	41	46	51	56	61	66
	クラブハウス	246	1994(H6)	26	31	36	41	46	51	56	61	66

* 候補となる学校(飯岡中学校)

※青塗: 築後20年未満 → 黄塗: 築後50年 → 赤塗: 築後80年未満 → 黒塗: 築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
飯岡中学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【13】 ・敷地面積【36,285㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【2,572㎡】 ・プール【無】 ・隣接公共施設【飯岡ふれあい公園・飯岡保健センター】	管理教室棟	1927	2015(H27)	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	普通教室棟	1975	2015(H27)	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	特別教室棟	980	2015(H27)	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	屋内運動場	2572	2015(H27)	5	10	15	20	25	30	35	40	45

4 統合小の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
飯岡中学校	・ 三川小、飯岡小とも統合学区に対して偏った位置にある。飯岡中は公共施設も隣接しているため、立地が良い。 ・ 飯岡中は市内で一番新しい学校であり、バリアフリー化もされていて活用しやすい。 ・ 小学校に転用するために必要となる施設、不要となる施設の整理を行う必要がある。 ・ 海上中と飯岡中の統合スケジュールに左右される。

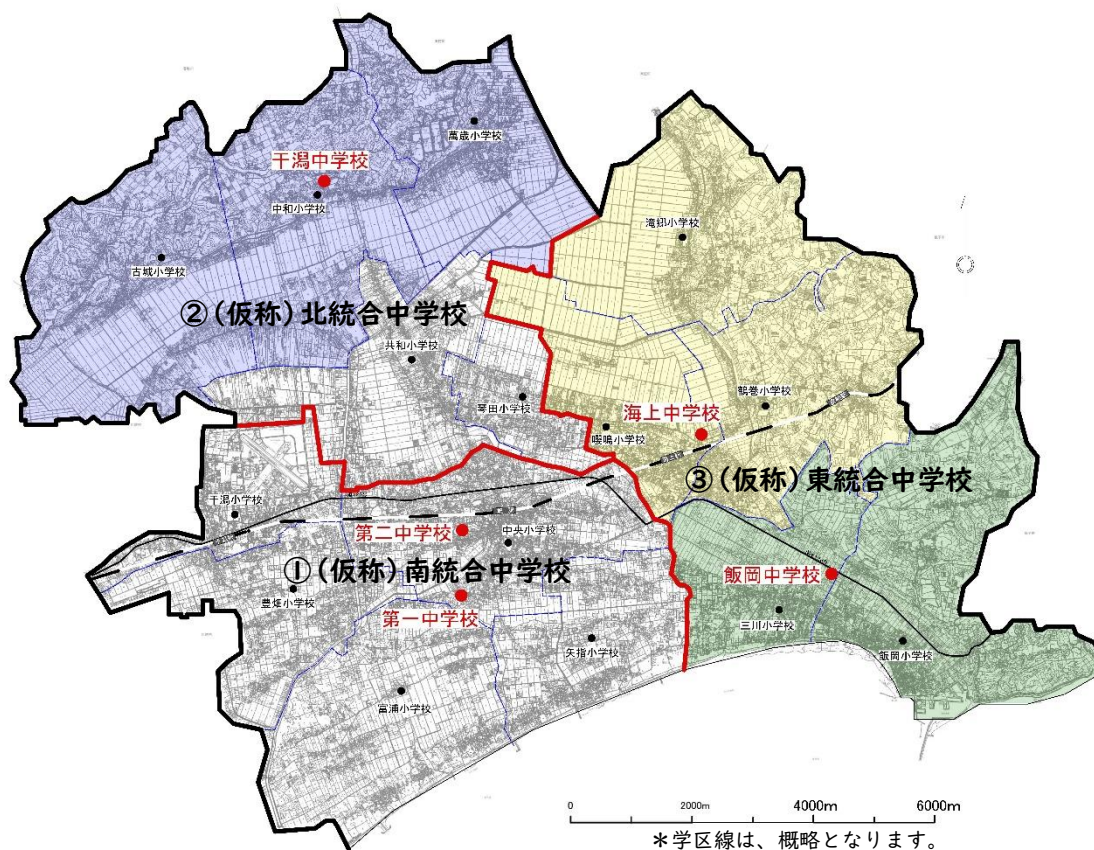
統合中学校を新設するにあたっての将来性

海上地域と飯岡地域は、それぞれの統合小学校の児童数も減少傾向にあります。海上地域統合小学校が新設された場合、立地によっては、統合中学校との連携も図りやすくなるため、将来的な児童生徒数の推移を見据えながら、海上地域と飯岡地域を一体化させた**小中一貫校**を検討していきます。



VI 中学校の再編

中学校は、5校を3校へ再編します。統合小学校の児童が同じ中学校に進学できることを踏まえた形となっています。この再編により、今までの地域の垣根を超えた統合を行うことで、新たな地域交流の形成を図ります。



図一 18 中学校の再編図

表 - 26 統合中の候補地

統合中学校	再編後の学校の位置 (候補)	統合小学校	
			対象小学校
①(仮称) 南統合中学校	第一中学校 または 第二中学校	①中央小	中央小
		②(仮称) 旭地域南小学校	富浦小・矢指小
		③(仮称) 旭地域西小学校	干潟小・豊畑小
②(仮称) 北統合中学校	新設(場所は未定) ※干潟中は転用・民間活用	④(仮称) 旭地域北小学校	琴田小・共和小
		⑤(仮称) 干潟地域小学校	中和小・萬歳小・古城小
③(仮称) 東統合中学校	海上中学校 ※飯岡中は統合小学校へ転用	⑥(仮称) 海上地域小学校	鶴巻小・滝郷小・嚶鳴小
		⑦(仮称) 飯岡地域小学校	三川小・飯岡小

VI-1 生徒数の推計

統合中学校の生徒数の推移と学級数を表したものです。早期に統合したとしても、文部科学省の適正規模（12～18学級）を維持することが難しくなる見込みとなります。

旭市が設定した1学年2学級（全校6学級）以上を踏まえた学校運営をしていくことが必要となります。

表-27 生徒数の推計

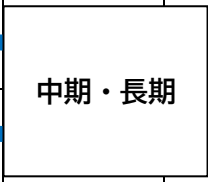
統合中学校	対象校	生徒数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	備 考
			R 2	R 7	R 1 2	R 1 7	R 2 2	R 2 7	R 3 2	R 3 7	R 4 2	
①（仮称）南統合中学校	中央小・干潟小・富浦小 矢指小・豊畑小	生徒数	793	703	662	585	541	499	446	403	366	※2020（R 2）年は実績値(R2.10)を対象校別に割り振った数。 ※2025（R 7）年以降の児童数は推計値の合計。 ※学級数は、1クラス35人として計算した数。（特別支援学級を含まない。） ・既存施設の活用性が高い。 ・統合しても適正規模（12～18学級）を下回る学校もあるが、旭市が設定した下限値（1学年2学級）を2060年まで継続可能となる見込み。
		学級数	23	21	19	17	16	15	13	12	11	
①（仮称）北統合中学校	琴田小・共和小 中和小・萬歳小・古城小	生徒数	334	331	298	264	246	227	205	190	173	
		学級数	10	10	9	8	8	7	6	6	6	
①（仮称）東統合中学校	鶴巻小・滝郷小・嚶鳴小 三川小・飯岡小	生徒数	503	422	383	340	317	294	270	249	222	
		学級数	15	13	11	10	10	9	8	8	6	

VI-2 中学校再編の時期

再編のスケジュールは、各学校の児童数や施設の建築年数、劣化状況を考慮して「短期」「中期・長期」としました。いずれの学校もできるだけ速やかに着手し、「中期・長期」の学校についても、遅くとも2030年には着手することとします。統合の時期については、下表の時期（青線）に統合校の開校ができるように進めていきます。

干潟地域の児童生徒数の減少傾向が大きいことから、②（仮称）北統合中学校を早急に進める必要がありますが、学校の新設等を踏まえると中期・長期的な計画になります。①（仮称）南統合中学校は、②（仮称）北統合中学校との関係性が深いため、同様に中期・長期計画としました。③（仮称）東統合中学校は、①②に影響を受けないため、短期計画として統合を進めていきます。

表-28 中学校再編のスケジュール

エリア	2025	2030 10年後	2035	2040 20年後
①（仮称）南統合中学校 中央小・干潟小・富浦小・矢指小・豊畑小				
②（仮称）北統合中学校 琴田小・共和小・中和小・萬歳小・古城小				
③（仮称）東統合中学校 鶴巻小・滝郷小・嚶鳴小・三川小・飯岡小				

VI-3 各中学校の再編について

VI-3-1 ①(仮称)南統合中学校

(仮称) 南統合中学校は、下記の学区とし、第一中または第二中を利用します。

中央小・干潟小・富浦小・矢指小・豊畑小

1. 学校の位置関係



図-19 (仮称) 南統合中の位置

(仮称) 南統合中学校は、干潟小学区を含めた、国道126号線以南のエリアとしました。第一中学校は、学区のほぼ中央にあり、近くに公園や文化会館があります。第二中学校は、学区のやや北側にあり、周辺が住宅地となっています。

2. 生徒数の推移

中央小学区の生徒が突出しています。早めに統合した場合、適正規模を超えた大規模校となりますが、2035年頃には適正規模になる見込みです。

表-29 生徒数の推計 ((仮称) 南統合中学校)

※2020年の数値は、R2.10時点の実績値を按分したもの。

統合中学校	各中学校の学区に入る小学校	生徒数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
① (仮称) 南統合中学校	中央小	生徒数	374	361	345	312	293	272	242	216	200
	干潟小	生徒数	136	106	87	78	72	66	60	58	54
	富浦小	生徒数	91	83	76	64	59	53	47	43	37
	矢指小	生徒数	88	69	77	64	57	53	48	42	36
	豊畑小	生徒数	104	84	77	67	60	55	49	44	39
	合計	生徒数	793	703	662	585	541	499	446	403	366
		学級数	23	21	19	17	16	15	13	12	11

※生徒数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。(特別支援学級を含まない。)

3. 各学校施設の状況

どちらの中学校も、比較的新しい校舎が多くあります。第一中学校を利用する場合は、教室数が不足するため、校舎の増築が必要となります。また、土地の拡張性はあるものの、大幅な拡張は難しい状況です。第二中学校は、教室数は賄える状況となっています。周辺に住宅地が広がっているため、拡張性は低いです。また、第二グラウンドは離れた場所にあるため、利便性が若干悪いことが挙げられます。

表 - 3 0 建物築後経過年数（第一中・第二中）

* 候補となる学校(第一中学校)

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をして耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
第一中学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【15】 ・敷地面積【28,929㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【1,812㎡】 ・プール 有【S46年築】 ・隣接公共施設【無】	教室棟	3096	1979(S54)	41	46	51	56	61	66	71	76	
	管理教室棟	2561	1980(S55)	40	45	50	55	60	65	70	75	
	柔剣道場	1451	1990(H2)	30	35	40	45	50	55	60	65	70
	屋内運動場	1812	2010(H22)	10	15	20	25	30	35	40	45	50
	部室棟	166	1993(H5)	27	32	37	42	47	52	57	62	67
	プール付属棟	109	1971(S46)	49	54	59	64	69	74	79		

* 候補となる学校(第二中学校)

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をして耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
第二中学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【28】 ・敷地面積【34,460㎡】 ・上記のうち借地面積【76㎡】 ・屋内運動場面積【1,799㎡】 ・プール 有【S60年築】 ・近隣公共施設【中央第二保育所】	特別教室棟・プール付属室	2350	1985(S60)	35	40	45	50	55	60	65	70	75
	教室棟	3840	2008(H20)	12	17	22	27	32	37	42	47	52
	管理教室棟	1641	2008(H20)	12	17	22	27	32	37	42	47	52
	情報処理棟	463	1991(H3)	29	34	39	44	49	54	59	64	69
	技術室・柔剣道場	1186	1979(S54)	41	46	51	56	61	66	71	76	
	屋内運動場	1799	2007(H19)	13	18	23	28	33	38	43	48	53
	部室棟	198	2009(H21)	11	16	21	26	31	36	41	46	51
	連絡通路	232	2008(H20)	12	17	22	27	32	37	42	47	52

4 統合中の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
第一中学校	・校舎が比較的新しく、既存校舎の活用が可能だが、教室が不足するため、増築等が必要となる。 ・周辺に住宅地が密集していないため、土地の拡張性はやや高い。 ・第一中は統合学区のほぼ中心となり、立地が良い。
第二中学校	・校舎が比較的新しく、既存校舎の活用が可能。 ・教室数は足りているため、増築等は不要だが、グラウンド等の容量は不足する可能性がある。 ・住宅地に囲まれているため、土地の拡張性は低い。 ・中央小の転用先としての可能性もある。

VI-3-2 ②(仮称)北統合中学校

(仮称)北統合中学校は、下記の学区とし、学校を新設することとします。なお、新設する学校の位置については、地域要件等を踏まえて検討します。

琴田小・共和小・中和小・萬歳小・古城小

1. 学校の位置関係

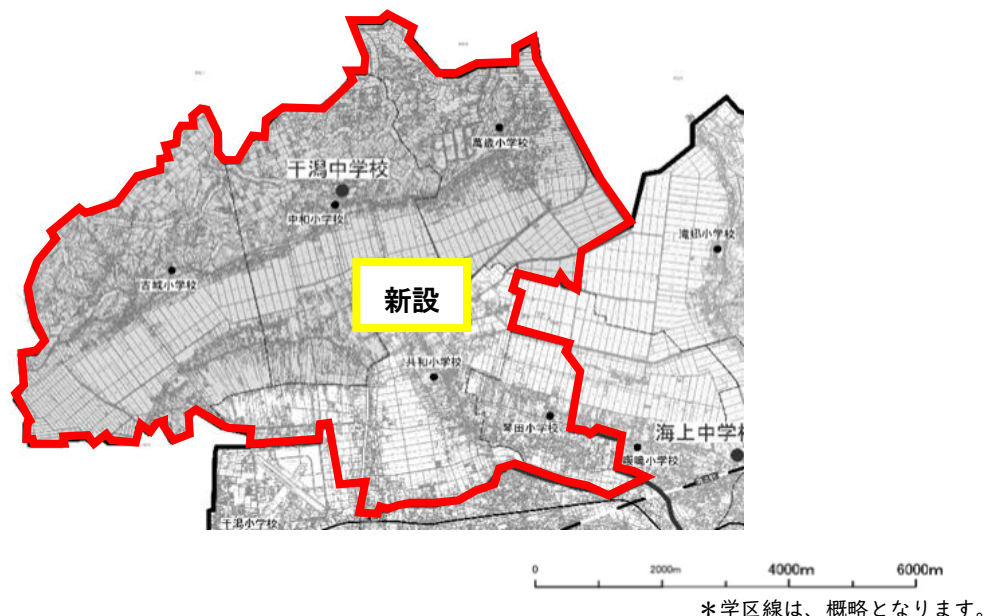


図-20 (仮称)北統合中の位置

(仮称)北統合中学校は、旧市町の垣根を超え、新たな地域交流の形成を図ります。干潟地域は東西に広がっており、地域の中央を通る県道沿いに街が形成されています。琴田・共和地区も、県道や幹線市道の沿線に市街地が形成されています。統合する地域の中心は水田が広がり、既存の施設を活用することが難しい状況となるため、新たに中学校を建設することとし、学校の位置については今後の検討とします。

2. 生徒数の推移

共和小学区以外の学区の生徒数が少ないため、適正規模を維持することが難しくなることが見込まれます。旭市が設定した1学年2学級（全校6学級）以上を踏まえた学校運営をしていくこととなります。

表-31 生徒数の推計（(仮称)北統合中学校）

※2020年の数値は、R2.10時点の実績値を按分したもの。

統合中学校	各中学校の学区に入る小学校	生徒数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R 2	R 7	R 1 2	R 1 7	R 2 2	R 2 7	R 3 2	R 3 7	R 4 2
② (仮称) 北統合中学校	琴田小	生徒数	74	77	75	70	66	63	61	59	56
	共和小	生徒数	129	125	114	102	95	86	78	72	67
	中和小	生徒数	43	35	31	26	23	21	19	17	14
	萬歳小	生徒数	34	39	29	24	24	22	19	17	14
	古城小	生徒数	54	55	49	42	38	35	28	25	22
	合計	生徒数	334	331	298	264	246	227	205	190	173
		学級数	10	10	9	8	8	7	6	6	6

※生徒数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。（特別支援学級を含まない。）

3 各学校施設の状況

干潟中学校の敷地は一部借地があるものの、隣接する市有地を含めると第二中学校と同じ規模となりますが、隣接地はため池であるため、整備面での課題があります。さらに、管理教室棟が2040年には耐用年数を迎えることから、建替えが必要となります。統合中学校の学区を見据えた立地条件や、生徒数のバランスを視野に入れた新たな場所の選定を検討していきます。

表 - 3 2 建物築後経過年数（干潟中）

* 干潟中学校

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設	校名	棟名	延床	建築年	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
干潟中学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【10】 ・敷地面積【24,302㎡】 ・上記のうち借地面積【848㎡】 ・屋内運動場面積【1,765㎡】 ・プール【無】 ・隣接公共施設【無】	管理教室棟	576	1963(S38)	57	62	67	72	77					
	管理教室棟	722	1964(S39)	56	61	66	71	76					
	管理教室棟	202	1970(S45)	50	55	60	65	70	75				
	管理特別教室棟	2013	1983(S58)	37	42	47	52	57	62	67	72	77	
	技術教室棟	450	1983(S58)	37	42	47	52	57	62	67	72	77	
	屋内運動場	1765	1992(H4)	28	33	38	43	48	53	58	63	68	

4 統合中の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
新設 ※場所は未定	・統合学区には干潟中学校があるが、立地や生徒数のバランス、施設の老朽化を踏まえると、新たな中学校を新設することが必要となる。

統合中学校を新設するにあたっての将来性

新設中学校については、早急に整備が必要となります。さらに統合後も生徒数の減少が見込まれているほか、学区内の統合小学校の児童数も相応に減少していくことから、その推移を見据えながら、**小中一貫校**を検討していきます。



VI-3-3 ③(仮称)東統合中学校

(仮称)東統合中学校の統合案は、海上中と飯岡中を統合し、海上中を統合校として検討します。なお、飯岡中の校舎は、三川小と飯岡小の統合小学校として検討していきます。

鶴巻小・滝郷小・嚶鳴小・三川小・飯岡小

1. 学校の位置関係

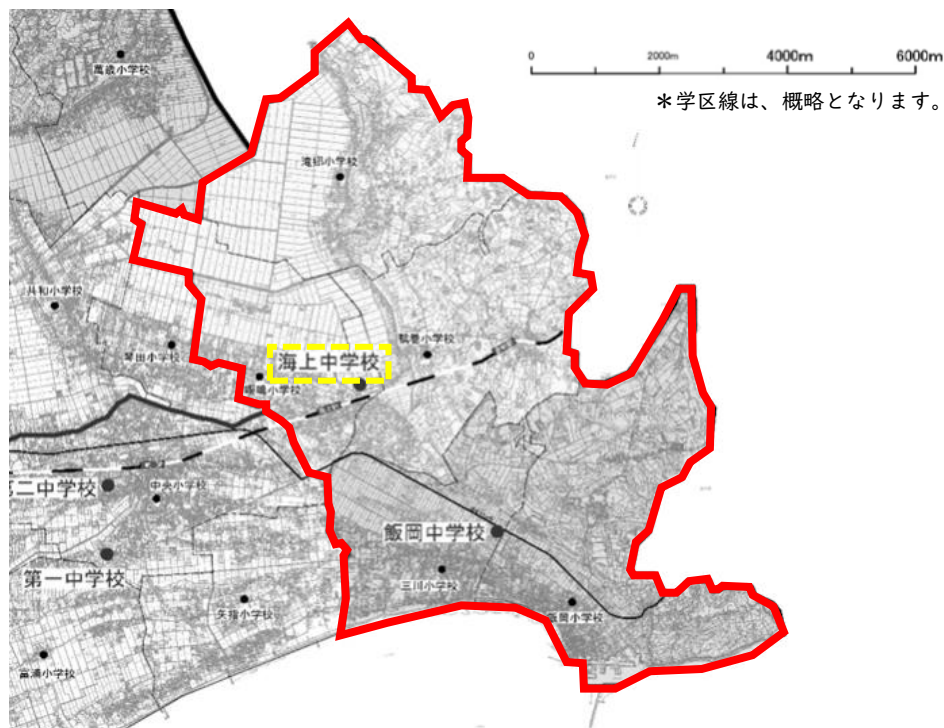


図-21 (仮称)東統合中の位置

2. 生徒数の推移

2040年頃までに統合を考えると、約12学級となり適正規模になります。さらに2060年には、6学級程度まで減少すると推計されますが、単学級にはならない見込みです。

表-33 生徒数の推計((仮称)東統合中学校)

※2020年の数値は、R2.10時点の実績値を按分したもの。

統合中学校	各中学校の学区に入る小学校	生徒数 学級数	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
			R 2	R 7	R 1 2	R 1 7	R 2 2	R 2 7	R 3 2	R 3 7	R 4 2
③ (仮称)東統合中学校	鶴巻小	生徒数	57	55	60	53	47	45	41	37	32
	滝郷小	生徒数	45	42	36	32	30	28	24	21	18
	嚶鳴小	生徒数	178	161	126	117	112	104	98	94	85
	三川小	生徒数	108	81	86	76	72	67	63	59	54
	飯岡小	生徒数	115	83	75	62	56	50	44	38	33
	合計	生徒数	503	422	383	340	317	294	270	249	222
		学級数	15	13	11	10	10	9	8	8	6

※生徒数は推計値。学級数は1クラス35人として計算。(特別支援学級を含まない。)

3 各学校施設の状況

海上中、飯岡中ともに合併後に新築された学校のため、校舎の耐用年数には問題ありません。立地を踏まえ、海上中を利用することとしましたが、飯岡中については、三川小・飯岡小統合小学校として活用することとします。

表 - 3 4 建物築後経過年数（海上中・飯岡中）

* 候補となる学校(海上中学校)

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
海上中学校	管理教室棟	2487	2006(H18)	14	19	24	29	34	39	44	49	54
	管理教室棟	1812	2006(H18)	14	19	24	29	34	39	44	49	54
	管理教室棟	624	2006(H18)	14	19	24	29	34	39	44	49	54
	屋内運動場・剣道場	1934	2006(H18)	14	19	24	29	34	39	44	49	54
・耐震化【済】												
・普通教室の最大数【14】												
・敷地面積【45,066㎡】												
・上記のうち借地面積【3,063㎡】												
・屋内運動場面積【1,390㎡】												
・プール【無】												
・隣接公共施設【海上公民館・海上コミュニティ運動公園】												

* 飯岡中学校

※青塗:築後20年未満 → 黄塗:築後50年 → 赤塗:築後80年未満 → 黒塗:築後80年以上(長寿命化工事をしても耐用年数は80年)

学校教育関連施設				2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
校名	棟名	延床	建築年									
飯岡中学校 ・耐震化【済】 ・普通教室の最大数【13】 ・敷地面積【36,285㎡】 ・上記のうち借地面積【0㎡】 ・屋内運動場面積【2,572㎡】 ・プール【無】 ・隣接公共施設【飯岡ふれあい公園・飯岡保健センター】	管理教室棟	1927	2015(H27)	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	普通教室棟	1975	2015(H27)	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	特別教室棟	980	2015(H27)	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	屋内運動場	2572	2015(H27)	5	10	15	20	25	30	35	40	45

4 統合中の選定理由と課題

学校の場所	選定理由と課題
海上中学校	・統合学区のバランスが取りやすい。 ・バイパス道路（飯岡海上連絡道）が完成すると、飯岡地域からのアクセス性も高い。 ・飯岡中は、統合小学校へ転用できる。

統合中学校を新設するにあたっての将来性

海上地域と飯岡地域は、それぞれの統合小学校の児童数も減少傾向にあります。将来、三川飯岡統合小の児童数の推移を踏まえ、鶴巻小・滝郷小・嚶鳴小統合小学校が新設された場合、さらなる統合の可能性もあります。その際は、統合中学校との連携も図りやすくなるため、**小中一貫校**を検討していきます。



Ⅶ 小中一貫教育に向けた検討

旭市の学校再編については、前述のとおり実施していくこととなります。この再編を着実に実施していくことは言うまでもありませんが、更にその先を見据えた場合、児童生徒数が想定以上に減少していくことも考えられます。

また、新型コロナウイルスのような世界の環境が大きく変化する事態や、ＩＣＴといった技術の進歩、多様性のスタンダード化など、世界の急速な変化に対応できるようにしていかなければなりません。

近い将来を考えると、小中一貫教育を導入することにより、児童生徒がより多様な環境で学習することや、多くの考え方に触れる機会を持てる環境づくりが可能となります。本市においても小中一貫教育（義務教育学校や小中一貫校）を検討してきましたが、メリット・デメリットを踏まえてより深い議論と地域の合意が必要だと判断しました。

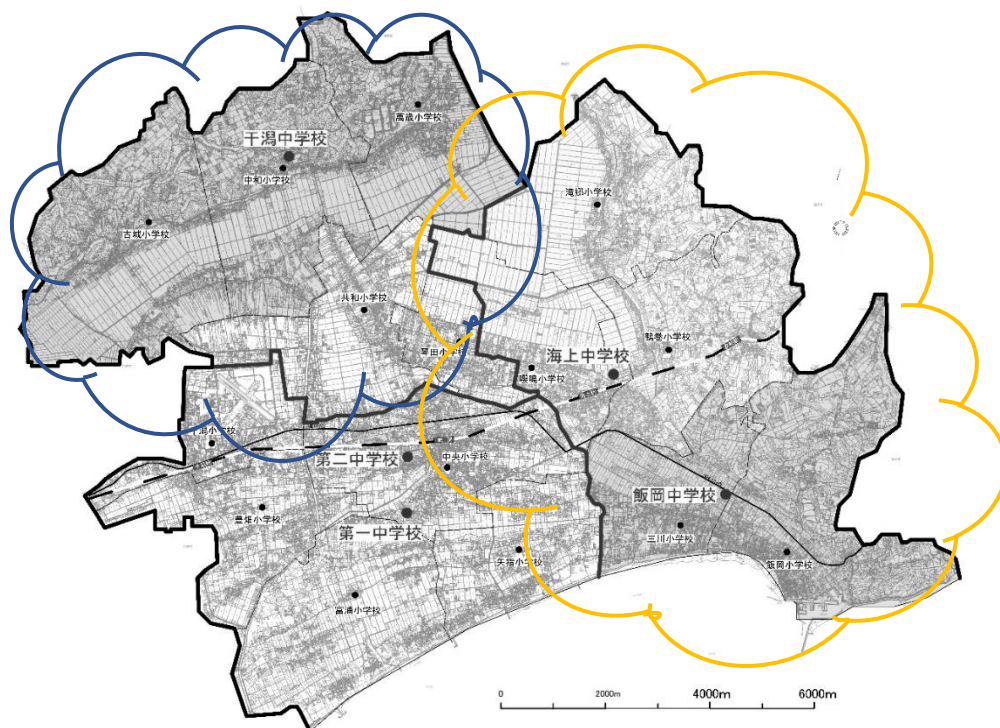
現時点での最大の課題は、児童生徒数の減少と財政規模の縮小による教育環境や学校運営の不均衡です。よって、この課題を解決することを最優先としました。

ただし、今回の再編で学校の新設を検討する統合校については、その観点も踏まえて、場所や施設内容の決定をしていく必要があります。

【将来的に小中一貫校を考える学校】

（仮称）北統合中学校⇔（仮称）旭地域北小学校
（仮称）干潟地域小学校

（仮称）東統合中学校⇔（仮称）海上地域小学校
（仮称）飯岡地域小学校



図－２２ 小中一貫教育を検討する学校

VIII 再編に向けて配慮すべき事項

1. 保護者や地域との合意形成

教育環境の整備は、児童生徒のためにはスピード感を持って進めていかなければなりません。その反面、統合校に関わる保護者や地域の方に対して十分な説明を行い、地域に根付く新たな学校として、地域の合意形成を図り、一体感を醸成できるよう配慮します。

2. 通学等の支援

学区の広域化による児童生徒への負担を十分に考慮するとともに、通学方法については、コミュニティバスやスクールバス等の活用など、様々な観点から検討していきます。

3. 学校施設の充実

多くの統合校は既存の学校を有効利用するため、施設の改修等を効果的に実施し、機能向上や環境改善による施設の充実を図ります。また、新設校を含めた計画的な整備を実施していきます。

4. 子どもたちへのサポート

学校の統廃合にあたり、子どもたちの不安や悩みを少しでも取り除き、新しい学校生活がより良いものとなるよう、統合前の交流や個々に応じた心のケアなど、必要な活動を実施していきます。

5. 統廃合に伴う跡地利用

統廃合によって、廃校となる学校については、それまで担ってきた地域の役割も踏まえ、今後も地域の拠点として利活用できるよう、検討していきます。

6. 再編基本方針の見直し

再編基本方針の策定については、十分な議論を行い決定しましたが、今後の社会情勢や児童生徒数の推移を見据えつつ、新たなニーズや環境を捉えたうえで、基本方針の内容や期間の見直しを行います。

IX 旭市学校再編計画策定委員会からのメッセージ

(令和元年7月～令和3年3月)

将来の子どもたちに何を残していくか。

2020年、新型コロナウイルスの猛威によって東京オリンピックが2021年に延期されました。さらに政府が緊急事態宣言を発令したことで、国民は外出自粛や営業自粛を余儀なくされる状況となりました。全国の学校も臨時休業が続く状態となり、卒業式や入学式の中止や縮小のほか、日常の学校生活も制限されるなど、いつもの日常が送れない状況が続いてきた中で、子どもたちは、この先どうなっていくのかという一抹の不安を抱えていたと思います。

旭市の子どもたちも例外ではなく外出自粛が約2か月間続きました。そのような大変な状況ではありましたが、自粛生活の中でもそれぞれの将来の夢や目標を少しずつ描き始めていたのではないのでしょうか。

この旭市学校再編計画策定委員会（以下、「本委員会」という）は、「旭市学校のあり方検討委員会」の提言を踏まえて設置され、令和元年7月に第1回を開催してから、視察を含めて合計13回の会議を行いました。

本委員会では、これからの小中学校の再編について、子どもたちの発達や学習環境の向上、個々の多様性に応じた柔軟で効果的な教育と指導など、様々な角度から検討してきました。

各委員も、それぞれの立場や思いもあったところですが、将来の子どもたちに何を残していくべきかを真剣に考え、それぞれの意見を総合した結果、このような計画に至りました。

この計画はそれぞれの地域にとって、今までとは異なる生活環境となる可能性もありますが、

～すべては旭市の子どもたちのために～

という思いを含め、ご理解いただきながら本計画をご覧いただければ幸いです。

旭市学校再編計画策定委員会

X 旭市人口推計分析(平成30年11月) ※抜粋

推計の概要

本市の将来に向けての児童生徒数の動向を把握し、旭市における学校の適正配置を検討していくため、小中学校区別、各年齢別の児童生徒数の中長期的な将来人口推計分析を実施した。

推計方法は、平成 27 年度旭市総合戦略（人口ビジョン）策定時に国から提供された人口推計用ワークシート（コーホート要因法※）を活用し、推計基準となる人口については「平成 27 年国勢調査」の「男女別・5 歳階級」データを用いた。（平成 27 年度旭市総合戦略（人口ビジョン）推計時は平成 22 年国勢調査データで推計）

推計パターンについては、協議の結果、「国立社会保障・人口問題研究所※（以下、社人研）準拠」の推計に加え、平成 27 年度旭市総合戦略（人口ビジョン）策定時で検討した「シミュレーション1～6」のうち、総合戦略の将来目標人口として設定した「シミュレーション6」の推計も行うこととした。

※コーホート要因法

コーホート要因法は、ある年の男女・年齢別人口を基準として、ここに年齢階層それぞれの人口変化として（①子ども女性比、②生残率など）の仮定値をあてはめて将来人口を予測する方法。過去の実績人口や将来人口に特殊な変動（社会増減、自然増減）が予想される場合に適している。

※国立社会保障・人口問題研究所

人口問題についての政府の研究機関で、各種人口推計や推計の仮定値を公表している機関。

推計期間

2020 年～2060 年までの 40 年間

基準人口

平成 27 年国勢調査の男女・年齢（5 歳階級別）別人口

【年齢3区分】小学校区別人口推計一覧表
(社人研準拠・H27国勢調査ベース(仮定値はH30社人研公表データ))

		実績値				推計値										増減数 H72⇒H27	増減率 H27⇒H72
		H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)			
旭市全体	年少人口(0～14歳)	10,773	9,750	8,890	8,119	7,363	6,677	6,082	5,538	5,087	4,649	4,216	3,818	3,450	-4,669	-57.5%	
	生産年齢人口(15～64歳)	46,101	45,232	43,499	39,616	36,268	33,490	30,970	28,593	25,669	23,264	21,181	19,332	17,806	-21,810	-55.1%	
	老年人口(65歳以上)	14,302	15,645	16,630	18,706	19,948	20,164	19,932	19,390	19,121	18,313	17,291	16,108	14,709	-3,997	-21.4%	
	総人口	71,176	70,643	69,058	66,586	63,579	60,331	56,985	53,521	49,877	46,226	42,687	39,258	35,965	-30,621	-46.0%	
中央小学校区	年少人口(0～14歳)	2,166	2,056	1,945	1,798	1,760	1,687	1,577	1,454	1,336	1,207	1,086	990	913	-885	-49.2%	
	生産年齢人口(15～64歳)	9,712	9,885	9,727	9,018	8,567	8,136	7,698	7,262	6,636	6,054	5,504	4,941	4,516	-4,502	-49.9%	
	老年人口(65歳以上)	3,035	3,435	3,596	4,143	4,349	4,385	4,403	4,364	4,429	4,419	4,362	4,286	4,056	-87	-2.1%	
	地区人口	14,912	15,381	15,290	14,990	14,676	14,208	13,678	13,080	12,401	11,680	10,952	10,217	9,485	-5,505	-36.7%	
琴田小学校区	年少人口(0～14歳)	441	471	464	441	406	359	342	322	306	294	282	269	253	-188	-42.6%	
	生産年齢人口(15～64歳)	1,760	1,802	1,816	1,828	1,801	1,781	1,735	1,700	1,597	1,489	1,421	1,380	1,348	-481	-26.3%	
	老年人口(65歳以上)	376	465	542	628	751	840	908	949	1,029	1,091	1,103	1,075	1,031	403	64.2%	
	地区人口	2,577	2,738	2,821	2,924	2,957	2,980	2,985	2,972	2,932	2,875	2,805	2,724	2,632	-292	-10.0%	
干潟小学校区	年少人口(0～14歳)	608	591	582	555	502	451	393	359	329	306	285	265	242	-312	-56.3%	
	生産年齢人口(15～64歳)	2,675	2,595	2,516	2,345	2,238	2,137	2,036	1,867	1,675	1,509	1,364	1,268	1,227	-1,118	-47.7%	
	老年人口(65歳以上)	505	620	752	884	973	1,013	1,044	1,101	1,156	1,168	1,152	1,085	965	81	9.2%	
	地区人口	3,789	3,806	3,860	3,806	3,714	3,601	3,473	3,327	3,160	2,982	2,801	2,618	2,435	-1,372	-36.0%	
富浦小学校区	年少人口(0～14歳)	681	593	558	477	411	377	336	298	269	242	215	192	170	-307	-64.4%	
	生産年齢人口(15～64歳)	3,141	2,946	2,844	2,444	2,177	1,944	1,761	1,569	1,378	1,224	1,089	980	896	-1,548	-63.3%	
	老年人口(65歳以上)	1,035	1,103	1,179	1,305	1,386	1,363	1,298	1,241	1,174	1,078	978	867	745	-560	-42.9%	
	地区人口	4,856	4,641	4,582	4,230	3,974	3,684	3,395	3,109	2,821	2,543	2,282	2,038	1,811	-2,419	-57.2%	
矢指小学校区	年少人口(0～14歳)	641	580	526	422	394	357	336	296	269	244	215	188	166	-256	-60.6%	
	生産年齢人口(15～64歳)	3,122	3,029	2,871	2,470	2,195	1,930	1,696	1,542	1,317	1,169	1,061	971	867	-1,603	-64.9%	
	老年人口(65歳以上)	1,053	1,133	1,200	1,294	1,376	1,381	1,344	1,247	1,208	1,102	977	848	747	-547	-42.3%	
	地区人口	4,817	4,745	4,597	4,197	3,965	3,669	3,375	3,085	2,794	2,515	2,253	2,007	1,780	-2,416	-57.6%	
共和小学校区	年少人口(0～14歳)	943	813	766	677	617	568	516	468	429	393	361	329	300	-378	-55.8%	
	生産年齢人口(15～64歳)	3,508	3,497	3,548	3,304	3,074	2,849	2,651	2,453	2,225	2,030	1,853	1,697	1,581	-1,723	-52.1%	
	老年人口(65歳以上)	925	1,007	1,088	1,282	1,425	1,510	1,554	1,571	1,584	1,549	1,492	1,413	1,297	15	1.1%	
	地区人口	5,376	5,319	5,405	5,277	5,115	4,928	4,721	4,492	4,238	3,972	3,706	3,440	3,177	-2,100	-39.8%	
豊畑小学校区	年少人口(0～14歳)	731	624	576	511	453	386	346	310	280	253	226	202	179	-333	-65.0%	
	生産年齢人口(15～64歳)	3,038	2,926	2,781	2,456	2,219	2,027	1,831	1,666	1,476	1,309	1,168	1,061	959	-1,497	-60.9%	
	老年人口(65歳以上)	867	945	1,024	1,212	1,261	1,267	1,247	1,188	1,143	1,076	996	891	794	-418	-34.5%	
	地区人口	4,636	4,496	4,382	4,184	3,934	3,680	3,424	3,164	2,899	2,638	2,390	2,154	1,932	-2,252	-53.8%	
鶴巻小学校区	年少人口(0～14歳)	568	532	429	352	300	284	270	244	225	207	185	162	141	-211	-60.0%	
	生産年齢人口(15～64歳)	2,322	2,308	2,154	1,952	1,720	1,558	1,425	1,290	1,137	1,026	949	855	759	-1,193	-61.1%	
	老年人口(65歳以上)	691	737	806	961	1,066	1,049	1,000	960	927	853	758	691	635	-326	-33.9%	
	地区人口	3,581	3,577	3,390	3,279	3,085	2,891	2,694	2,494	2,288	2,085	1,892	1,708	1,535	-1,744	-53.2%	
滝郷小学校区	年少人口(0～14歳)	394	338	274	284	221	189	169	156	142	127	110	94	80	-204	-72.0%	
	生産年齢人口(15～64歳)	1,461	1,353	1,283	1,163	1,027	923	845	759	667	604	551	486	422	-741	-63.7%	
	老年人口(65歳以上)	565	618	585	640	650	632	579	530	490	429	370	333	302	-338	-52.8%	
	地区人口	2,420	2,309	2,142	2,087	1,899	1,744	1,593	1,445	1,299	1,160	1,032	913	804	-1,283	-61.5%	
嚙鳴小学校区	年少人口(0～14歳)	847	822	774	799	716	665	584	547	515	484	454	422	388	-411	-51.5%	
	生産年齢人口(15～64歳)	3,413	3,457	3,356	3,335	3,100	2,947	2,843	2,716	2,533	2,356	2,194	2,065	1,985	-1,350	-40.5%	
	老年人口(65歳以上)	801	895	1,032	1,222	1,423	1,544	1,618	1,641	1,678	1,685	1,663	1,601	1,485	263	21.5%	
	地区人口	5,061	5,180	5,162	5,367	5,240	5,156	5,045	4,904	4,726	4,524	4,311	4,088	3,857	-1,510	-28.1%	
三川小学校区	年少人口(0～14歳)	681	651	600	538	473	401	386	354	333	312	291	267	241	-297	-55.2%	
	生産年齢人口(15～64歳)	2,774	2,775	2,608	2,492	2,357	2,231	2,041	1,867	1,668	1,545	1,430	1,357	1,282	-1,210	-48.6%	
	老年人口(65歳以上)	756	903	1,044	1,133	1,220	1,267	1,305	1,327	1,342	1,274	1,198	1,084	975	-158	-14.0%	
	地区人口	4,211	4,329	4,252	4,168	4,049	3,898	3,731	3,548	3,344	3,131	2,919	2,707	2,498	-1,670	-40.1%	
飯岡小学校区	年少人口(0～14歳)	907	745	615	522	456	384	337	293	262	232	203	173	147	-375	-71.8%	
	生産年齢人口(15～64歳)	4,205	3,908	3,522	2,911	2,451	2,103	1,799	1,563	1,324	1,159	1,013	897	765	-2,146	-73.7%	
	老年人口(65歳以上)	1,593	1,690	1,706	1,789	1,809	1,712	1,582	1,413	1,263	1,076	910	752	643	-1,146	-64.0%	
	地区人口	6,705	6,343	5,843	5,223	4,716	4,199	3,718	3,269	2,849	2,467	2,126	1,823	1,555	-3,668	-70.2%	
中和小学校区	年少人口(0～14歳)	360	312	246	215	189	157	138	121	108	97	86	75	64	-151	-70.1%	
	生産年齢人口(15～64歳)	1,432	1,393	1,331	1,145	979	854	762	681	587	515	449	400	345	-800	-69.9%	
	老年人口(65歳以上)	676	644	625	674	690	675	621	560	514	454	402	343	303	-371	-55.1%	
	地区人口	2,468	2,349	2,202	2,034	1,858	1,686	1,520	1,362	1,209	1,067	937	818	711	-1,323	-65.0%	
萬歳小学校区	年少人口(0～14歳)	296	249	206	209	179	158	132	121	112	100	87	76	66	-143	-68.6%	
	生産年齢人口(15～64歳)	1,325	1,251	1,163	1,023	860	758	694	617	536	468	423	363	321	-702	-68.6%	
	老年人口(65歳以上)	547	567	550	580	610	584	532	483	439	394	337	304	261	-319	-55.1%	
	地区人口	2,168	2,067	1,919	1,812	1,649	1,500	1,358	1,220	1,087	962	847	742	648	-1,164	-64.3%	
古城小学校区	年少人口(0～14歳)	509	373	329	319	286	251	222	196	173	151	130	115	101	-218	-68.3%	
	生産年齢人口(15～64歳)	2,213	2,107	1,980	1,730	1,501	1,312	1,153	1,040	913	807	713	612	532	-1,198	-69.2%	
	老年人口(65歳以上)	877	883	901	959	960	943	900	814	745	667	592	535	470	-489	-51.0%	
	地区人口	3,599	3,363	3,210	3,008	2,747	2,507	2,275	2,050	1,831	1,625	1,436	1,262	1,104	-1,904	-63.3%	

※実績値の地区人口及び総人口は、年齢不詳分を含むため、年少人口・生産年齢人口・老年人口の合計値と合致しない場合がある。
※推計値については、小数点以下の処理により合計値が合わない場合がある。

【年少人口(未就学児・小学生・中学生)】小学校区別人口推計一覧表
(社人研準拠・H27国勢調査ベース(仮定値はH30社人研公表データ))

		実績値	推計値								
		H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
旭市全体	未就学児(0-5歳)	3,002	2,760	2,456	2,257	2,084	1,887	1,721	1,559	1,400	1,272
	小学生(6-11歳)	3,326	3,009	2,765	2,482	2,266	2,096	1,908	1,736	1,576	1,417
	中学生(12歳-14歳)	1,790	1,594	1,456	1,343	1,188	1,104	1,020	921	841	761
	合計(年少人口・0-14歳)	8,119	7,363	6,677	6,082	5,538	5,087	4,649	4,216	3,818	3,450
中央小学校区	未就学児(0-5歳)	705	687	630	588	546	489	436	399	369	340
	小学生(6-11歳)	719	714	696	643	596	554	500	446	406	375
	中学生(12歳-14歳)	374	359	360	346	312	293	271	241	215	198
	合計(年少人口・0-14歳)	1,798	1,760	1,687	1,577	1,454	1,336	1,207	1,086	990	913
琴田小学校区	未就学児(0-5歳)	152	142	134	126	120	114	111	105	99	92
	小学生(6-11歳)	192	165	148	141	132	126	120	116	111	104
	中学生(12歳-14歳)	97	99	77	75	70	66	63	61	59	56
	合計(年少人口・0-14歳)	441	406	359	342	322	306	294	282	269	253
干潟小学校区	未就学児(0-5歳)	215	182	159	145	134	122	116	108	97	88
	小学生(6-11歳)	221	213	186	161	147	136	124	117	110	100
	中学生(12歳-14歳)	118	107	106	87	78	72	66	60	58	54
	合計(年少人口・0-14歳)	555	502	451	393	359	329	306	285	265	242
富浦小学校区	未就学児(0-5歳)	173	160	137	124	112	99	90	80	70	63
	小学生(6-11歳)	189	168	158	137	122	111	99	89	79	69
	中学生(12歳-14歳)	115	83	83	76	64	59	53	47	43	37
	合計(年少人口・0-14歳)	477	411	377	336	298	269	242	215	192	170
矢指小学校区	未就学児(0-5歳)	149	158	137	121	112	102	89	77	69	62
	小学生(6-11歳)	178	151	150	138	120	110	101	89	77	68
	中学生(12歳-14歳)	95	85	69	77	64	57	53	48	42	36
	合計(年少人口・0-14歳)	422	394	357	336	296	269	244	215	188	166
共和小学校区	未就学児(0-5歳)	254	234	209	191	174	159	146	134	120	111
	小学生(6-11歳)	273	253	235	211	192	176	161	149	136	123
	中学生(12歳-14歳)	150	130	125	114	102	94	86	78	73	66
	合計(年少人口・0-14歳)	677	617	568	516	468	429	393	361	329	300
豊畑小学校区	未就学児(0-5歳)	183	162	143	127	116	104	94	83	74	66
	小学生(6-11歳)	218	184	160	142	126	115	104	93	83	74
	中学生(12歳-14歳)	110	106	84	77	67	60	55	49	44	39
	合計(年少人口・0-14歳)	511	453	386	346	310	280	253	226	202	179
鶴巻小学校区	未就学児(0-5歳)	116	122	111	99	92	85	77	67	58	51
	小学生(6-11歳)	144	116	118	111	99	92	85	77	67	58
	中学生(12歳-14歳)	92	62	55	60	53	47	45	41	37	32
	合計(年少人口・0-14歳)	352	300	284	270	244	225	207	185	162	141
滝郷小学校区	未就学児(0-5歳)	94	78	70	65	61	54	47	40	34	28
	小学生(6-11歳)	119	92	77	68	62	59	53	45	39	33
	中学生(12歳-14歳)	71	51	42	36	32	30	28	24	21	18
	合計(年少人口・0-14歳)	284	221	189	169	156	142	127	110	94	80
嚶鳴小学校区	未就学児(0-5歳)	316	260	231	220	205	191	182	169	154	143
	小学生(6-11歳)	311	309	273	237	225	211	197	187	175	159
	中学生(12歳-14歳)	172	147	161	127	117	112	105	97	93	86
	合計(年少人口・0-14歳)	799	716	665	584	547	515	484	454	422	388
三川小学校区	未就学児(0-5歳)	173	168	153	143	134	125	118	108	97	88
	小学生(6-11歳)	240	186	167	157	145	136	127	120	110	99
	中学生(12歳-14歳)	125	118	81	86	76	72	67	63	59	54
	合計(年少人口・0-14歳)	538	473	401	386	354	333	312	291	267	241
飯岡小学校区	未就学児(0-5歳)	191	168	141	125	111	99	87	75	63	54
	小学生(6-11歳)	218	185	160	137	120	107	95	83	72	60
	中学生(12歳-14歳)	113	102	83	75	62	56	50	44	38	33
	合計(年少人口・0-14歳)	522	456	384	337	293	262	232	203	173	147
中和小学校区	未就学児(0-5歳)	77	67	57	50	45	40	37	32	27	23
	小学生(6-11歳)	92	78	66	56	49	44	40	36	31	27
	中学生(12歳-14歳)	46	45	35	31	26	23	21	19	17	14
	合計(年少人口・0-14歳)	215	189	157	138	121	108	97	86	75	64
萬歳小学校区	未就学児(0-5歳)	84	65	54	51	47	42	37	32	28	25
	小学生(6-11歳)	80	78	66	53	49	46	41	36	31	27
	中学生(12歳-14歳)	45	36	39	29	24	24	22	19	17	14
	合計(年少人口・0-14歳)	209	179	158	132	121	112	100	87	76	66
古城小学校区	未就学児(0-5歳)	120	107	92	82	74	63	54	49	43	37
	小学生(6-11歳)	131	117	104	90	80	73	62	53	47	42
	中学生(12歳-14歳)	68	62	55	49	42	38	35	28	25	22
	合計(年少人口・0-14歳)	319	286	251	222	196	173	151	130	115	101

※実績値の地区人口及び総人口は、年齢不詳分を含むため、年少人口・生産年齢人口・老年人口の合計値と合致しない場合がある。
※推計値については、小数点以下の処理により合計値が合わない場合がある。

【年少人口(未就学児・小学生・中学生)】中学校区別人口推計一覧表(※小学校区別推計の積み上げ)
(社人研準拠・H27国勢調査ベース(仮定値はH30社人研公表データ))

		実績値	推計値								
		H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
旭市全体	未就学児(0-5歳)	3,002	2,760	2,456	2,257	2,084	1,887	1,721	1,559	1,400	1,272
	小学生(6-11歳)	3,326	3,009	2,765	2,482	2,266	2,096	1,908	1,736	1,576	1,417
	中学生(12歳-14歳)	1,790	1,594	1,456	1,343	1,188	1,104	1,020	921	841	761
	合計(年少人口・0-14歳)	8,119	7,363	6,677	6,082	5,538	5,087	4,649	4,216	3,818	3,450
第一中学校区	未就学児(0-5歳)	322	318	274	245	224	201	180	157	138	126
	小学生(6-11歳)	367	319	308	275	242	221	200	179	157	137
	富浦小	210	168	152	152	128	116	106	95	85	73
	矢指小	899	805	734	672	594	538	486	431	380	336
第二中学校区	未就学児(0-5歳)	1,509	1,407	1,273	1,177	1,089	988	903	829	758	697
	小学生(6-11歳)	1,624	1,530	1,426	1,298	1,194	1,107	1,009	920	846	775
	中央小、琴田小	849	801	752	699	629	585	542	490	450	414
	干潟小、共和小	3,982	3,738	3,451	3,174	2,912	2,680	2,453	2,239	2,054	1,887
海上中学校区	未就学児(0-5歳)	526	460	412	383	359	330	306	277	246	222
	小学生(6-11歳)	574	517	469	417	386	362	335	309	281	250
	鶴巻小	335	260	258	223	202	189	178	163	151	136
	滝郷小	1,435	1,237	1,139	1,023	947	881	818	749	678	608
飯岡中学校区	未就学児(0-5歳)	364	336	294	268	245	224	205	183	160	142
	小学生(6-11歳)	458	371	327	294	265	243	222	203	182	160
	三川小	238	221	164	161	138	128	117	107	98	87
	飯岡小	1,060	928	785	722	647	595	544	493	440	388
干潟中学校区	未就学児(0-5歳)	281	238	202	184	167	145	128	113	98	85
	小学生(6-11歳)	303	273	235	199	178	163	143	125	110	95
	中和小	158	143	129	108	92	85	77	66	58	51
	萬歳小	743	654	567	492	438	393	348	304	266	231
古城小	合計(年少人口・0-14歳)										

※中学校区別推計については、小学校区別推計結果を積み上げたものである。
 ※第一中学校区と第二中学校区に分割される中央小学校区については、「大字ハ」以外は全て第二中学校区であるため第二中学校区に積み上げている。
 ※実績値の地区人口及び総人口は、年齢不詳分を含むため、年少人口・生産年齢人口・老年人口の合計値と合致しない場合がある。
 ※推計値については、小数点以下の処理により合計値が合わない場合がある。

旭市学校再編基本方針

令和3年6月 発行

【発行】 旭市

【編集】 旭市教育委員会教育総務課